

令和 7 年度

事業報告



公益財団法人 国際交通安全学会
International Association of Traffic and Safety Sciences

令和7年度第15期(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)の
事業活動について、次の通り報告いたします。

令和8年3月31日

公益財団法人 国際交通安全学会

会 長 武 内 和 彦

目次

令和7年度事業活動の概況	1
1. 事業目的	2
2. 事業内容	2
3. 展開にあたっての重点	2
4. 本年度の公益目的事業の実施状況	2
5. 成果	4
6. 令和7年度の特記すべき活動	5
7. 主たる会議	5
1) 評議員会	5
2) 理事会	5
3) 企画調整委員会	6
4) 年次交流会	8
8. 運営体制の充実を図るための取組	8
9. その他	8

国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業	13
-----------------------------	----

I 研究調査事業	14
1. 令和6年度研究調査報告会	14
2. 能登震災復興プロジェクト	15
3. 令和7年度研究調査プロジェクト	17
< 2501A > (新規)	
多様なモビリティに関するアーリーアダプターの協調走行促進に関する研究	18
< 2502A > (新規)	
ジュニアシート使用率向上に向けた、交通安全情報発信の在り方の研究	20
< 2503C > (継続)	
無信号横断歩道における車両の譲りを促すための実証的研究	23
< 2504B > (継続)	
気候変動に伴う交通事故リスクの長期変動に関する国際比較研究	25
< 2505C > (継続)	
XRを活用した事故メカニズムの解明と安全対策 ～北日本地域での異常気象時を 中心に～	27

< 2506A フォーラム連携> (新規)	
マレーシアにおけるバーチャル・リアリティ技術と「安全な学校」イニシアティブを 組み合わせた交通安全教育プログラムの開発	29
< 2507A 行政・団体連携> (新規)	
睡眠負債による交通事故リスクを可視化するスクリーニング法の社会実装研究	32
< 2508A > (新規)	
街路樹のあるべき姿を探る	34
< 2509C 行政・団体連携> (継続)	
日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究	37
< 2510C > (継続)	
子育てしやすい子どもにやさしい交通環境実現のための教育・行動変容プログラムの 開発と適用	40
< 2511C 行政・団体連携> (継続)	
ウエルビーイング向上のための二輪車のブランディングー二輪車死亡・重傷事故防 止に向けた安全教育	42
< 2512A > (新規)	
モビリティ分野の GIG エコノミーをめぐる社会課題解決：インドにおけるラストマイル・ バイク配送運転者を中心とした安全性向上にむけて	44
< 2513B > (継続)	
セーフシステムアプローチを用いたタイにおける二輪車重大事故削減施策検討	46
< 2514C > (継続)	
都市はウォークアブルになるべきなのか？ーデータに基づく分野横断的議論ー	48
< 2515A > (新規)	
災害からの復興を通じた立地変化と交通行動変化の相互作用の研究	50
< 2520A 社会貢献> (新規)	
自動運転車を日常生活で安心して使うための安全基準ーガイドラインの整備・点検	52
< 2521A 社会貢献> (新規)	
カンボジアにおける探究型学習を通じた交通安全教育	54
< 2522A 社会貢献> (新規)	
小型電動モビリティの受容性、安全性向上に向けた環境整備に関する研究成果の展開	56
< 2570 国際発表>	59
4. 令和7年度研究調査内部報告会	60
5. 研究調査部会	60
6. 国際共創部会	61

- 1) 国際共創部会立上げ
- 2) ATRANS(Asian Transportation Research Society) への業務委託
- 3) ESRA(E-Survey of Road users' Attitudes)3 プロジェクトへの参画
- 4) 海外研究機関等とのネットワークの強化

II 広報出版事業69

1. 学会誌編集部会69
2. 英文論文集編集部会71

III 褒賞・助成事業76

1. 第46回(令和6年度)国際交通安全学会賞贈呈式76
2. 第47回(令和7年度)国際交通安全学会賞76
3. 令和7年度褒賞助成部会79
4. ユース活動助成金制度81

IV 国際交流事業 (IATSS フォーラム)83

1. IATSS フォーラム研修実施83
2. フォーラム40周年記念事業の開催83
3. IATSS フォーラム部会 開催実績83
4. IATSS フォーラム部会メンバー84
5. 現地委員会84

財務諸表87

1. 貸借対照表89
2. 活動計算書90
3. 財務諸表に対する注記91
4. 附属明細書99

監査報告書

令和 7 年度事業活動の概況

1. 事業目的

国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献

2. 事業内容

- 1) 交通及びその安全に関する調査研究
- 2) 交通及びその安全に関するシンポジウム
- 3) 交通及びその安全に関する広報及び出版
- 4) 交通及びその安全に関する活動に対する褒賞及び助成
- 5) 諸外国における理想的な交通社会実現のための国際交流

3. 展開にあたっての重点

- 1) 学際性並びに国際性を特徴とした先見性及び実際性を目指す、活力ある事業運営
- 2) 社会及び経済環境を直視した事業規模とし、予定される収入を基とする効率的かつ均衡のとれた事業運営の継続

4. 本年度の公益目的事業の実施状況

- 1) 交通及びその安全に関する調査研究
 - 20 件の調査研究テーマ実施
 - ・ 能登震災復興プロジェクト
 - ・ 多様なモビリティに関するアーリーアダプターの協調走行促進に関する研究
 - ・ ジュニアシート使用率向上に向けた、交通安全情報発信の在り方の研究
 - ・ 無信号横断歩道における車両の譲りを促すための実証的研究
 - ・ 気候変動に伴う交通事故リスクの長期変動に関する国際比較研究
 - ・ XR を活用した事故メカニズムの解明と安全対策
～北日本地域での異常気象時を中心に～
 - ・ マレーシアにおけるバーチャル・リアリティ技術と「安全な学校」イニシアティブを組み合わせた交通安全教育プログラムの開発
 - ・ 睡眠負債による交通事故リスクを可視化するスクリーニング法の社会実装研究
 - ・ 街路樹のあるべき姿を探る
 - ・ 日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究
 - ・ 子育てしやすく子どもにやさしい交通環境実現のための教育・行動変容プログラムの開発と適用
 - ・ ウェルビーイング向上のための二輪車のブランディングー二輪車死亡・重傷事故防止に向けた安全教育
 - ・ モビリティ分野の GIG エコノミーをめぐる社会課題解決：インドにおけるラストマイル・バイク配送運転者を中心とした安全性向上にむけて
 - ・ セーフシステムアプローチを用いたタイにおける二輪車重大事故削減施策検討

- ・都市はウォークアブルになるべきなのか？ーデータに基づく分野横断的議論ー
- ・災害からの復興を通じた立地変化と交通行動変化の相互作用の研究
- ・自動運転車を日常生活で安心して使うための安全基準ーガイドラインの整備・点検ー
- ・カンボジアにおける探究型学習を通じた交通安全教育
- ・小型電動モビリティの受容性、安全性向上に向けた環境整備に関する研究成果の展開
- ・国際発表：International Conference of Asia-Pacific Planning Societies 2025
「Research on Development and Operation of the Traffic Enforcement Support System Using Artificial Intelligence」

2) 交通及びその安全に関するシンポジウム：

- ・令和6年度 研究調査報告会 参加 245 名 (ハイブリッド開催)
- ・国際交通安全学会シンポジウム「持続可能で安全なモビリティ環境の共創
～能登半島の復興まちづくりに向けて～」参加 309 名 (ハイブリッド開催)
- ・市民のための交通安全サミット「交通ルールの浸透と安全な交通行動への反映
～自転車・小型電動モビリティとの共存を目指して～」参加 29 名
- ・シンポジウム「SNSとAI時代に、いかに安全情報を届けるか
～チャイルドシートの使用実態と情報発信の課題～」参加 82 名

3) 交通及びその安全に関する広報及び出版：

- ・学会誌 (IATSS Review) 定期発行
- ・英文誌 (IATSS Research) 定期発行
- ・「Pioneering the Future for Traffic and Safety Sciences」記念出版

4) 交通及びその安全に関する褒賞及び助成：

- ・第46回学会賞贈呈 業績部門2件、著作部門2件、論文部門1件
業績部門(1)：シェアサイクルで街をささえ人がそだつ～札幌市での自転車文化の鼓動～
受賞者：特定非営利活動法人 ポロクル
業績部門(2)：官民共創と地方創生テレワークが最先端の地域モビリティを実現する
受賞者：塩尻市

著作部門(1)：街歩きと都市の様相 空間体験の全体性を読み解く

受賞者：北 雄介

著作部門(2)：世界に学ぶ自転車都市のつくりかた 人と暮らしが中心のまちとみちのデザイン

受賞者：宮田 浩介、小畑 和香子、南村 多津恵、早川 洋平

論文部門：Analysis of primary-party traffic accident rates per driver in Japan from 1995 to 2015: Do older drivers cause more accidents?

受賞者：Kyoungmin Kim, Keisuke Matsushashi, Masahiro Ishikawa

- ・第47回学会賞選定 業績部門2件、著作部門1件、論文部門2件
業績部門(1)：のとの里山の道の守人～道路緊急復旧・復興現場の声に学ぶ～

受賞者：石川県建設業協会、石川県奥能登土木総合事務所、国土交通省北陸地方整備局 能登復興事務所

業績部門(2)：人とまちが一つになるにぎわいの空間 ～なんば駅前広場と安全安心なまちづくりの物語～

受賞者：なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会

著作部門：技術システムの継承と選択：国有鉄道における改軌論争と新幹線開発

受賞者：菊地 宏樹

論文部門(1)：[論説] ライドシェアをめぐる法制度の現状と今後の課題

受賞者：谷口 博文

論文部門(2)：Analysis of land-use and POIs contributing to traffic accidents around inter-sections

受賞者：Satoshi Nakao, Koshi Sawada, Andreas Keler, Jan-Dirk Schmöcker

・ユース活動助成金(5校を助成)

(1) 高知県土佐市立蓮池小学校

(2) 埼玉県川口市立並木小学校

(3) 熊本県立矢部高等学校二輪競技部

(4) 福岡県立北九州視覚特別支援学校

(5) 静岡県加藤学園高等学校

5) 諸外国における理想的な交通社会実現のための国際交流：

アジア 10 カ国 39 名が参加(春・秋各 8 週間研修)

5. 成果

能登震災復興プロジェクトで提言書の作成・取りまとめを行いシンポジウムで発信、その後提言書を内閣府ならびに石川県へ手交した。

自動運転車の社会的信頼の継続的確保を目指し、利用者の生活水準の向上に貢献をすべくガイドラインとなるブックレットを発刊した。

「共存と安全推進」をテーマに掲げたイベントを実施し、行政、学識、利用者が参加する分科会での議論を通じて「走行空間、混合交通、ながら運転」の課題に対する提言を発信した。

シンポジウムを開催し、チャイルドシートを例に、誤使用の状況や情報収集の実態に関するアンケート報告とともに、AI 時代の情報発信の在り方について提言した。

日本型ラウンドアバウトの普及加速に向け、長崎県諫早市での社会実験で今後の小型 RAB 設計指針の策定に向けた有用な知見を獲得。また、日本で必要とされる RAB 導入方針(日本型 RAB)のコンセプトを提示した。

6. 令和 7 年度の特記すべき活動

1) IATSS フォーラム創立 40 周年記念式典の開催、及び関連事業の実施

IATSS フォーラムの創立 40 周年に際して、令和 7 年 11 月 9 日に三重県鈴鹿サーキットで、創立 40 周年記念式典を開催し、ラオス在日大使、三重県副知事、鈴鹿市副市長などのご来賓により、国内外より合わせて 190 名の方にご出席いただいた。

創立 40 周年記念式典の第一部では、人材育成を基軸とした新ビジョンを宣言した。

第二部では高村ゆかり教授の基調講演やパネルディスカッションが行われた。

併せて、国際委員長会議の開催や新拠点の紹介、記念冊子の発行など、多角的な周年事業を通じて今後の展望を国内外に発信した。

7. 主たる会議

1) 評議員会

第 31 回評議員会 (定時評議員会) (R07.06.11)

経団連会館 5 階 502 号室にて開催し、次の (1) 項については承認され、(2)、(3) 項については決議された。

- (1) 令和 6 年度事業報告および決算承認の件
- (2) 評議員選任の件
- (3) 役員選任の件

第 32 回評議員会 (臨時評議員会) (R08.03.17)

経団連会館 5 階 503 号室およびオンラインにて開催し、次の (1) 項については承認され、(2) 項について決議された。

- (1) 令和 8 年度事業計画及び収支予算書承認の件
- (2) 評議員選任の件

2) 理事会

第 68 回理事会 (通常理事会) (R07.05.14)

経団連会館 5 階ルビールームにて開催し、次の (1)、(3) 項、については決議され、(2) 項については承認され、(4)、(5) 項については報告された。

- (1) フォーラム 40 周年式典積立資金保有に関する決議
- (2) 令和 6 年度事業報告及び決算書類等の承認の件
- (3) 第 31 回評議員会 (定時評議員会) 招集の決議
- (4) 代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告
- (5) IATSS フォーラム設立 40 周年記念事業準備状況報告

第 69 回理事会 (臨時理事会) (R07.06.11)

経団連会館 5 階 502 号室にて開催し、次の (1) 項については選定され、(2) 項については決議された。

- (1) 代表理事および業務執行理事選定の件
- (2) 顧問委嘱の件

第 70 回理事会（臨時理事会：みなし決議）(R07.11.25)

理事 12 名から電磁的方法による全員の同意が得られ、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかったので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

- (1) IATSS フォーラム事務所移転の決議

第 71 回理事会（臨時理事会：みなし決議）(R08.02.26)

理事 12 名から電磁的方法による全員の同意が得られ、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかったので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

- (1) 第 1 号議案：第 32 回評議員会開催の件
- (2) 第 2 号議案：第 47 回国際交通安全学会賞承認の件

第 72 回理事会（通常理事会）(R08.03.17)

経団連会館 5 階 503 号室およびオンラインにて開催し、次の (1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6) 項について決議され、(7) 項については報告された。

- (1) 公益充実資金保有に関する決議
- (2) 小学校・中学校・高等学校等への助成対象先選考に関する決議
- (3) 令和 8 年度事業計画書及び収支予算書等の決議
- (4) 新会員選任および会員再任承認の決議
- (5) 顧問委嘱の決議
- (6) 重要な使用人選任に関する決議
- (7) 代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告

3) 企画調整委員会

(1) 新会員紹介イベントの企画・開催

令和 7 年度の新会員 3 名を既存の関係者へ紹介し、活動の活性化を図るため、以下のイベントを企画 / 実施した。

IATSS 新会員デビュートーク概要

- 開催日 : 令和 7 年 9 月 1 日
- 場所 : ハイブリッド開催
- 内容 : 新会員からのプレゼンおよび質疑
- 新会員 : 押田佳子 氏、三浦詩乃 氏、安井裕司 氏
- 参加者 : 会場・リモート併せて 36 名
- 会場 : 30 名(新会員 3 名、役員・評議員 4 名、顧問 8 名、会員 15 名)
- リモート : 6 名(役員・評議員 1 名、顧問 3 名、会員 2 名)

(2) 令和 8 年度新会員候補者の選考

当委員会での議論の結果、新会員候補を 4 名選考し、会長に上申した。

(3) 委員会開催実績

第 1 回 (R07.05.09)

- ・創 50 戦略会議の発展的解消により、企画調整委員会の役割が追加されたことを確認した。
 - ・令和 8 年度新会員候補の募集・選考方針を検討・決定した。
 - ・令和 7 年度の新会員デビュートーク準備進捗を確認した。
- 今年度から新たに追加された役割についての対応方法を議論し、ポスト GIFTS/ 海外招待会員・名誉顧問の選考については、国際共創部会に検討依頼し、IATSS ビジョン 2024 の戦略構築については、新たに設定したタスクフォースに検討依頼することに決定した。

第 2 回 (R07.09.22)

- ・新会員デビュートークの実施報告がなされた。
- ・各部会委員会の活動進捗状況を共有した。
- ・令和 8 年度新会員候補者リスト 37 名について討議し、第一次絞り込みは行わず、次回二次選考までに、各委員の手持ち 3 票として、3 名の候補者 (一人は必ず「法律・行政・経済」分野) に事前投票することとした。
- ・戦略構築タスクフォースから各部会のビジョン実現に向けたアイデア募集の提案があり、それを了承した。

第 3 回 (R07.11.12)

- ・各部会委員会の活動進捗状況を共有した。
- ・令和 8 年度新会員候補選考について、委員による事前投票の結果一覧に基づく検討の結果、4 名を最終候補として会長に上申することとなった。
- ・今年度定年延長候補者 2 名の選考について議論し、2 名共定年延長者として、会長に上申することとなった。

第 4 回 (R08.03.03)

- ・各部会委員会の進捗状況を共有した。
- ・秋山会員の会員辞任により、令和 8 年度新会員候補を新たに選考した。
- ・令和 9 年度新会員候補の募集・選考方針を検討した。
- ・令和 8 年度の新会員デビュートーク企画案を検討した。
- ・戦略構築について、各部会から新たな取り組み等情報提供をいただくことに決定した。
- ・新たな会員活性化策を検討した。

(4) 企画調整委員会メンバー

委員長 森本 章倫 (IATSS 会員 / 早稲田大学理工学術院 創造理工学部社会環境工学科 教授)
一ノ瀬 友博 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)
小川 和久 (IATSS 会員 / 東北工業大学総合教育センター 教授)

紀伊 雅敦 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科 教授)
 北村 友人 (IATSS 会員 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)
 小竹 元基 (IATSS 会員 / 東京科学大学工学院機械系 教授)
 中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)

4) 年次交流会

目的：理事・監事・評議員と、委員長・部会長との情報交換、交流

内容：委員会・部会より最新活動報告＋意見交換会

年次交流会概要

開催日：令和 8 年 1 月 22 日 (木) 17:00 ～ 19:00

場所：経団連会館 5F 503・504

内容：第一部 委員会・部会活動報告会

第二部 意見交換会

8. 運営体制の充実を図るための取組

本会では令和 6 年度公益法人制度改正の趣旨を踏まえ、透明性の向上と適正な法人運営を確保するため、以下の取組を継続して行っている。

- ・理事会、評議員会を適切に開催し、議決事項の審議内容を明確化するため議事録を整備。
- ・役員の利益相反に関する確認を行い、公正な意思決定が行われる体制を維持。
- ・監事と定期的に意見交換を行い、法人運営の改善点を確認。
- ・事務局内において業務分掌および二重チェック体制を維持し、内部統制の確保を図っている。
- ・制度改正や会計基準に関する最新情報を収集し、必要に応じて役職員へ共有。
- ・会計処理が適正に行われるよう、内部での確認体制を維持。

これらの取組により、運営体制の適正な維持および透明性の確保に努めている。

9. その他

1) 許認可及び登記事項

(1) 評議員

氏名	登記事項	登記日
友竹 明彦	6 月 11 日評議員辞任に伴う抹消登記	令和 7 年 6 月 26 日
塩崎 一馬	6 月 11 日評議員就任に伴う登記	令和 7 年 6 月 26 日

(2) 理事

中村 文彦	6 月 11 日理事就任に伴う登記	令和 7 年 6 月 26 日
中村 文彦	6 月 11 日代表理事就任に伴う登記	令和 7 年 6 月 26 日
宮寄 拓郎	6 月 11 日理事退任に伴う抹消登記	令和 7 年 6 月 26 日
鎌原 俊二	6 月 11 日理事退任に伴う抹消登記	令和 7 年 6 月 26 日

石井 隆之	6 月 11 日理事就任に伴う登記	令和 7 年 6 月 26 日
和辻 健二	6 月 11 日理事就任に伴う登記	令和 7 年 6 月 26 日

* 重任に伴う登記情報は記載していません

(3) 従たる事業所

12 月 1 日従たる事務所移転に伴う登記	令和 7 年 12 月 1 日
三重県鈴鹿市稲生町 7992 番地	

* 理事および監事

(R08.03.31)

役 職〔勤務〕	氏 名(敬称略)	現職〔国家公務員出身者最終官職〕
会 長〔非常勤〕	武内 和彦	(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)理事長 東京大学特任教授
副会長〔非常勤〕	加藤 稔	本田技研工業(株)執行役
副会長〔非常勤〕	中村 文彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科 サステイナブル社会デザインセンター特任教授 (公社)日本交通計画協会技監
専務理事〔常勤〕	河合 信之	本田技研工業(株)特別職 〔関東管区警察局長〕
常務理事〔常勤〕	橋居 賢治	本田技研工業(株)主幹
理 事〔非常勤〕	石井 隆之	(一財)ひまわり基金理事長
	岸井 隆幸	(一財)計量計画研究所代表理事 政策研究大学院大学客員教授
	久保 公人	尚美学園大学名誉教授
	久保田 尚	埼玉大学名誉教授 日本大学客員教授
	深澤 淳志	(一社)関東地域づくり協会理事長 〔国土交通省道路局長〕

	蓮花 一己	帝塚山大学名誉教授客員教授
	和辻 健二	(公財) 運行管理者試験センター理事長
監 事〔非常勤〕	平田 久美子	平田久美子税理士事務所税理士
	森澤 治郎	本田技研工業(株)取締役常勤監査委員

3) 評議員

(R08.03.31)

氏 名(敬称略)	現 職
足立 龍平	本田技研工業(株)主幹
鎌田 聡	(株) ジャパン・アイディー顧問
栗原 典善	OFFICE NORI 代表
木場 宣行	(公財) 日本自動車輸送技術協会会長
佐々木 真郎	(公財) 交通事故総合分析センター理事長
塩崎 一馬	(公財) 三井住友海上福祉財団専務理事
林 良嗣	東海学園大学 卓越教授 / 学長特命参与
宮田 年耕	(一財) 道路新産業開発機構理事長

4) 主催・共催等

(1) 主催

国際シンポジウム 能登半島復興への提言 持続可能で安全なモビリティ環境の共創

開催日：令和7年12月15日(月)

場所：東京コンベンションホール

(2) 共催

18th ATRANS Annual Conference

～ “Transport Innovation Shaping the Future Mobility and Lifestyles” ～

開催日：令和7年8月29日(金)

場所：Chatrium Grand Bangkok Hotel, Thailand

主催：ATrans (Asian Transportation Research Society)、(公財) 国際交通安全学会

(3) 協賛

①令和 7 年春の全国交通安全運動

開催日 : 令和 7 年 4 月 6 日(土)～15 日(月)

主催 : 内閣府・警察庁等 10 府省庁、都道府県、市区町村、関係 13 団体

②令和 7 年秋の全国交通安全運動

開催日 : 令和 7 年 9 月 21 日(土)～30 日(月)

主催 : 内閣府・警察庁等 10 府省庁、都道府県、市区町村、関係 13 団体

③令和 7 年度 交通安全フォーラム ― なくそう！高齢者の交通事故 ～健康で安全・安心な交通社会をめざして～

開催日 : 令和 7 年 9 月 3 日(水)

富山県民会館ホール

主催 : 内閣府、富山県

(4) 後援

無し

国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業

I 研究調査事業

1. 令和 6 年度研究調査報告会 (R07.04.11)

参加者 : 役員、評議員、顧問、会員、特別研究員、諸官庁、報道関係及び一般参加者 計 245 名

場所 : 対面及びオンラインでのハイブリッド開催

報告テーマ :

2402C 自動運転車と共生する社会 ―その基盤整備に向けた包括的提言―

2406C 人工知能を用いた効率的な事故防止対策に関する研究

2409B 日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究

2412B 小型電動モビリティの受容性、安全性向上に向けた環境整備に関する国際比較研究

Prj ⑤ Investigation of Operations and Services of Small Public Transport and Paratransit to Enhance Railway Station Access

2. < 2500T > 能登震災復興プロジェクト

(1) 研究目的と概要

令和6年1月1日、「令和6年能登半島地震」が発生した。死者は704人・全壊家屋は6,167棟(令和8年2月27日時点)にのぼり、未だに生活インフラやまちの復旧が十分には進んでいない状況であり、IATSS会員も個々に様々な復興支援活動を行っている。

IATSSは東日本大震災の際に学会横断のプロジェクトチームを組んで提言をまとめた経験がある。また過去に能登空港が学会賞(業績賞)を授賞した経緯もある。そこで今回の能登半島地震に対してもMobilityを軸にして提言を行う必要があると考え、企画調整委員会の委員長のもとで若手を含むメンバーで超学際的なプロジェクトを令和6年10月に立ち上げた。

本プロジェクトでは①復興に課題のある能登地域への提言、②半島地域・中山間地域での防災可能性を踏まえた他地域の事前復興への提言、を目的とし、他の学協会の動きも踏まえつつ超学際性を活かしたIATSS独自の提言を令和7年度中に完成すべく活動した。

令和6年度に、現地視察・ヒアリングで得た情報等を元に、メンバー間で議論し、提言作成に向けて抽出したキーワードを元に、令和7年度は、提言書の作成・取りまとめを行い、12月15日でのシンポジウムで発信した。その提言書を、令和8年2月25日に、内閣府松林審議官へ、3月23日に石川県へお渡しした。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R07.04.24)
中村先生がまとめたキーワードベースのメモについて、メンバーの意見をまとめ議論
資料作成の分担を決め、スケジュールを共有
- ・第2回研究会(R07.07.22)
提言取りまとめ内容の議論
シンポジウム準備状況および本番に向けた推進内容の共有
- ・現地視察&第3回研究会(R07.09.18)
輪島市・珠洲市の視察結果共有
提言とりまとめ内容の議論・共有
シンポジウム詳細内容の議論・決定
- ・第4回研究会(R07.10.30)
提言取りまとめ内容の最終調整

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 森本 章倫 (IATSS 会員 / 早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
一ノ瀬 友博 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学 環境情報学部 学部長・教授)
大木 聖子 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学 環境情報学部 准教授)
柴山 多佳児 (IATSS 会員 / ウィーン工科大学 交通研究所 上席研究員)
中川 由賀 (IATSS 会員 / 中京大学 法学部 教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学 経済学部 教授)

平岡 敏洋 (IATSS 会員 /(一財) 日本自動車研究所 主席研究員)

特別研究員

中村 文彦 (IATSS 副会長 / 東京大学大学院新領域創成科学研究科サステイナブル社会デザインセンター 特任教授)

河合 信之 (IATSS 専務理事)

高山 純一 (公立小松大学大学院 サステイナブルシステム科学研究科 教授)

塩土 圭介 (株式会社日本海コンサルタント 社会事業本部 計画研究室 本部長兼室長)

オブザーバー

三林 直慶 (石川県企画振興部 交通総合対策監)

3. 令和 7 年度研究調査プロジェクト

令和 7 年度は、次の 19 件の研究調査プロジェクト等を実施した。

《自主研究》

- 2501A 多様なモビリティに関するアーリーアダプターの協調走行促進に関する研究
- 2502A ジュニアシート使用率向上に向けた、交通安全情報発信の在り方の研究
- 2503C 無信号横断歩道における車両の譲りを促すための実証的研究
- 2504B 気候変動に伴う交通事故リスクの長期変動に関する国際比較研究
- 2505C XR を活用した事故メカニズムの解明と安全対策 ～北日本地域での異常気象時を中心に～
- 2508A 街路樹のあるべき姿を探る
- 2510C 子育てしやすく子どもにやさしい交通環境実現のための教育・行動変容プログラムの開発と適用
- 2512A モビリティ分野の GIG エコノミーをめぐる社会課題解決:インドにおけるラストマイル・バイク配送運転者を中心とした安全性向上にむけて
- 2513B セーフシステムアプローチを用いたタイにおける二輪車重大事故削減施策検討
- 2514C 都市はウォークアブルになるべきなのか? ーデータに基づく分野横断的議論ー
- 2515A 災害からの復興を通じた立地変化と交通行動変化の相互作用の研究

《IATSS フォーラム連携》

- 2506A マレーシアにおけるバーチャル・リアリティ技術と「安全な学校」イニシアティブを組み合わせた交通安全教育プログラムの開発

《行政・団体連携》

- 2507A 睡眠負債による交通事故リスクを可視化するスクリーニング法の社会実装研究
- 2509C 日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究
- 2511C ウェルビーイング向上のための二輪車のブランディングー二輪車死亡・重傷事故防止に向けた安全教育

《社会貢献》

- 2520A 自動運転車を日常生活で安心して使うための安全基準ーガイドラインの整備・点検
- 2521A カンボジアにおける探究型学習を通じた交通安全教育
- 2522A 小型電動モビリティの受容性、安全性向上に向けた環境整備に関する研究成果の展開

《国際発表》

- 2570 Research on Development and Operation of the Traffic Enforcement Support System Using Artificial Intelligence

< 2501A >

多様なモビリティに関するアーリーアダプターの協調走行促進に関する研究

(1) 研究目的と概要

持続可能な脱炭素社会の実現に向け、歩行者や自転車に加えて、新たに電動小型モビリティの活用が期待される。しかし一般的に、新たな技術を普及初期段階で利用するアーリーアダプターはリスク選好が高いことが知られる。モビリティの運転者がとるリスクはリスクに慎重な他の道路利用者にも影響を及ぼすため、社会的受容上の課題が大きい。これは普及の目覚ましい電動キックボード (KB) のみならず、新たなモビリティに共通の課題といえる。本研究は、リスク選好の高い利用者にリスクを自覚させ、協調走行を行わせるための方策の提案を目的とする。リスクを客観視するための危険挙動抽出手法や、心理的アプローチによる動機付け手法の構築を目指す。

新しいモビリティの主要例として、電動 KB を対象に調査を実施。

- ・ 動機付け手法検討のための Web アンケート調査

電動 KB 利用者の多くがイノベータまたはアーリーアダプターに分類され、イノベータ理論を裏付ける結果となった。

イノベータでは自身の経験を他者に共有する SNS 型の情報共有システムが、アーリーアダプターでは個人の安全走行に対するインセンティブポイントを与えるシステムがより安全走行の推進に寄与すると見込まれる。

- ・ 挙動観測システム構築と危険挙動分析

定点観測映像から電動 KB を抽出するシステムと、走行挙動観測のセンシングシステムを開発。

挙動分析からは、電動 KB に特徴的な交錯および交通違反行動を整理した。

(2) 研究経過

- ・ 第 1 回研究会 (R07.05.12)

メンバー紹介

プロジェクト概要の説明

今年度の活動計画

- ・ 第 2 回研究会 (R07.10.17)

プロジェクト概要説明と現状共有

アーリーアダプター向け動機付け・行動変容施策の検討

- ・ 第 3 回研究会 (R07.12.17)

アンケート調査報告と議論

- ・ 第 4 回研究会 (R08.01.28)

アンケート分析結果報告

ビデオ映像からの自動検知アルゴリズムの検討状況報告

ビデオ映像による挙動分析結果報告

走行調査用センサ開発状況報告

今年度とりまとめについて

(3) プロジェクトメンバー

PL 井料 美帆 (IATSS 会員 / 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
小川 和久 (IATSS 会員 / 東北工業大学総合教育センター 教授)
神田 直弥 (IATSS 会員 / 東北公益文科大学 学長・教授)
北村 友人 (IATSS 会員 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)
柴山 多佳児 (IATSS 会員 / ウィーン工科大学交通研究所上席研究員)
鈴木 弘司 (IATSS 会員 / 名古屋工業大学社会工学科 教授)
土井 健司 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科 教授)
堀口 良太 (IATSS 会員 / (株)アイ・トランスポート・ラボ 顧問)

特別研究員

鈴木 一史 (静岡理工科大学 准教授)
立松 秀樹 (株式会社 オリエンタルコンサルタンツ)
長谷川 悠 (東京大学生産技術研究所 特任研究員)
葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科地域総合工学専攻 准教授)

研究協力者

伊藤 大貴 (株式会社 長大)
Li Weiyi (名古屋大学博士後期課程)

< 2502A >

ジュニアシート使用率向上に向けた、交通安全情報発信の在り方の研究

(1) 研究目的と概要

近年、車内に於ける小児の死傷事故が後を絶たない。この背景には、交通安全に関する適切な情報が伝わっていないことが挙げられる。インターネットの発達により省庁や自治体、企業らが自らオウンドメディアを持ち発信できるようになったが、同時に一般人による発信や AI の登場により情報伝達の仕組みは変化し、交通安全に関する多くの情報が伝わらない状況が続いている。本プロジェクトではジュニアシートを例にとり、必要な人に必要な情報が届く実践的な仕組みを提案して子どもたちの命と生活を守り、少子高齢化の日本に於ける持続的な社会の実現を目指す。

小学生以下の子どもを持つ保護者一万人と、子どものいない人三千人に対してインターネットアンケートを実施。これによりジュニアシートを使用しない背景には、シートベルトをしていれば安全と考える誤解が多いことを確認した。また、情報入手先として官公庁などが支持されているが、欲しい情報までたどりつけない不満が多いこともわかった。これらは情報発信者の『統一された、最新の正確な情報を、繰り返し伝える』という責務が果たされていないことで起きていると考えられ、改善が求められる。情報は正しいタイミングに届かなければ、その役割を果たさない。AI 時代に対応するための情報提供の在り方を提言する。

(2) 研究経過

- ・ JAF ポスターイベント視察／ BritishColumbia 大学 Ian Pike 教授ヒアリング (R07.04.02)
JAF が茨城県水戸市で開催したチャイルドシート普及イベントを視察した。
イベントを Ian Pike 教授を視察しながら、情報提供の在り方についてヒアリングを実施した。
- ・ 第 1 回研究会 (R07.04.14)
 - ・ PL 挨拶
 - ・ メンバー紹介
 - ・ 今年度のスケジュール、及び、現在の問題点と情報発信の現状について
 - ・ JAF のポスター取り組み紹介
 - ・ 意見交換
 - ・ アンケートたたき台紹介
- ・ 宮城県 警察庁／ JAF チャイルドシート使用率調査 視察 (R07.05.10)
宮城県仙台市ララガーデン長町で行われた警察庁 /JAF によるチャイルドシート使用調査を視察した。
- ・ 東京都 警察庁／ JAF チャイルドシート使用率調査 視察 (R07.06.14)
東京都江戸川区葛西臨海公園 駐車場で行われた警察庁 /JAF によるチャイルドシート使用調査を視察した。
- ・ 第 2 回研究会 (R07.07.22)
 - ・ 警察庁／JAF CRS 使用率調査報告 第三者の視点から
 - ・ 医学会の動き 外傷学会ジュニアシート緊急提言シンポジウム報告
 - ・ 「小児乗員に関する医工連携に基づくリアルワールド交通事故実態調査」

- ・アンケート速報報告
- ・シンポジウム日程調整 11 月予定
- ・東京都市大学 奥村倫弘教授 ヒアリング (R07.08.27)
東京都市大学 奥村先生とAI時代における情報発信の戦略についてヒアリングを実施した。
- ・第3回研究会 (R07.10.01)
 - ・プロジェクト進行状況確認
 - ・国交省道路局 Maas 関連の道交法の適用について
 - ・11 月 27 日開催 シンポジウム(案)説明
 - ・アンケート最終報告
 - ・意見交換
 - ・今後の予定
- ・ジュニアシートシンポジウム開催 (R07.11.27)
日本自動車会館くるまプラザにて、シンポジウム「SNS と AI 時代に、いかに安全情報を届けるか ～チャイルドシートの使用実態と情報発信の課題～」を開催しました。官民学から 82 名の専門家が参集し、チャイルドシートの使用・情報収集実態に関するアンケート結果を共有するとともに、AI 時代における効果的な安全情報の発信手法について提言を行いました。
- ・警察庁ジュニアシートに対する打合せ (R08.01.29)
警視庁に訪問し、ジュニアシートの世界の法令基準について議論した。
- ・第4回研究会 (R08.02.05)
 - ・シンポジウム報告
 - ・内部報告会(3 月 7 日)に向けて
 - ・来期の作戦会議
- ・チャイルドシート・ラボ 僧都昌弘氏 ヒアリング (R08.02.16)
チャイルドシート・ラボ僧都様とチャイルドシートやジュニアシートの実際の使用状況についてヒアリングを実施した。

(3) プロジェクトメンバー

PL 岩貞 るみこ (IATSS 会員 / モータージャーナリスト)

神田 直弥 (IATSS 会員 / 東北公益文科大学 学長・教授)

田久保 宣晃 (IATSS 会員 / (公財) 交通事故総合分析センター 研究部次長兼研究第一課長)

中井 宏 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)

中川 由賀 (IATSS 会員 / 中京大学法学部 教授)

森本 章倫 (IATSS 会員 / 早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

伊藤 友弥 (あいち小児保健医療総合センター 小児究明救急センター 副センター長)

谷口 綾子 (筑波大学大学院システム情報系社会工学域 教授)

丹野 祥孝 (JAF 交通環境部調査研究課 課長)

菱川 豊裕 ((公財) 交通事故総合分析センター 研究部 第一研究課 研究員)

廣瀬 翔 (JAF 交通環境部調査研究課 主管)

オブザーバー

緒方 友幸 （警察庁交通企画課 課長補佐）

奥村 敦 （警察庁交通企画課 安全係）

宮木 由貴子（第一生命経済研究所 常務取締役 首席研究員）

村松 朝生 （内閣府政策統括官（共生・共助担当）参事官補佐）

< 2503C >

無信号横断歩道における車両の譲りを促すための実証的研究

(1) 背景と目的

持続的な交通管理の課題として、信号機の維持管理の問題が挙げられており、信号機によらない歩行者横断歩道の運用が増加していく可能性がある。一方で、無信号横断歩道での一時停止率の低さも指摘されており、その対策が求められている。海外では閃光により運転者の注意喚起を促す Rectangular Rapid Flashing Beacons (RRFB) を横断歩道の施設対策として整備し、横断歩行者の通行利便性を向上させようとする取り組みがある。

本研究では、国内外における無信号横断歩道の安全性向上に向けた施設対策や考え方(制度・整備体系)を整理し、日本の無信号横断歩道における行動誘発型デバイスである RRFB の設置効果と譲り行動の促進効果を検証することを目的とした。

結果として、閃光時と非閃光時の車両の譲り率が向上し、RRFB の設置自体が譲り行動の底上げに寄与した可能性が示唆された。また、時間経過とともに歩行者側で使用と支持が拡大し、歩行者の横断意思の可視化によって運転者の行動変容を促す効果があることがわかった。

(2) 研究経過

・第1回研究会 (R07.05.29)

1. 前年度までのプロジェクトの内容確認
2. 愛知県豊田市での調査結果の報告
3. 津田沼での実験状況の報告
4. 今後の予定
5. その他

・第2回研究会 (R07.04.04)

1. 研究会：前回の振り返りと進捗の共有
2. 現地視察：RRFB _JR津田沼駅北口付近
3. その他

・第3回研究会 (R07.11.20)

1. 前回の振り返り
2. RRFB の社会実験の進捗状況とアンケート結果について
3. その他

・第4回研究会 (R08.02.24)

1. 前回の議事録の確認
2. RRFB の社会実験について
3. 内部報告会に向けて
4. その他

(3) プロジェクトメンバー

PL 小早川 悟 (IATSS 会員 / 日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
関根 太郎 (IATSS 会員 / 日本大学理工学部機械工学科 教授)
田久保 宣晃 (IATSS 会員 /(公財) 交通事故総合分析センター 研究部次長兼研究第一課長)
平岡 敏洋 (IATSS 会員 /(一財) 日本自動車研究所 主席研究員)
松橋 啓介 (IATSS 会員 /(国研) 国立環境研究所社会システム領域 室長)

特別研究員

赤羽 弘和 (IATSS 顧問 / 千葉工業大学 教授)
高田 邦道 (IATSS 顧問 / 日本大学 名誉教授)
福田 敦 (IATSS 顧問 / 日本大学理工学部交通システム工学科 特任教授)
松村 みち子 (IATSS 顧問 / タウンクリエイター 代表)
青山 恵里 (日本大学理工学部交通システム工学科 助教)
大谷 亮 ((一財) 日本自動車研究所 主任研究員)
菊池 浩紀 (日本大学理工学部交通システム工学科 助教)
木戸 伴雄 (交通アナリスト)
寺内 義典 (国士舘大学理工学部工学研究科建築工学 教授)
吉村 暢洋 (日本大学大学院理工学研究科 社会人院生)

< 2504B >

気候変動に伴う交通事故リスクの長期変動に関する国際比較研究

(1) 研究目的と概要

気候変動の影響は必ずしも激甚災害だけでなく、日々の気象条件にも変化を及ぼす。そのため、我々の日常生活も、それに適応することが求められる。一方、気候は人々の生活・交通行動だけでなく、リスク認知・判断にも大きな影響を及ぼすことが知られている。その場合、気候変動は長期的な交通事故特性にも影響を与えると考えられるが、それに関する知見は少ない。本プロジェクトでは、交通行動に関する国際比較アンケートや各種観測データを用い、気象条件と交通事故の根源的な関係性を明らかにする。それに基づき、長期の気候変動シナリオにおける、世界的な事故リスクの変動について考察を行うとともに、今後の都市・交通政策のあり方を提言する。

本プロジェクトでは以下の課題に取り組んでいる。

- ① 気象条件による交通行動への影響に関する研究
 - ② 気象条件が運転行動・交通事故件数に及ぼす影響の分析
 - ③ 各種要因を考慮した世界の交通死亡者数変動に関するモデル分析
-
- ① に関して、日本・インドネシア・中国・インド・カタール・ギリシア・オーストリア・ノルウェーを対象にアンケート調査を行った。
 - ② については、交通事故データ、携帯電話基地局データなどを用いて、気象条件が交通事故・交通行動・運転行動に及ぼす影響を定量評価した。次年度は高温高湿室においてドライビングシミュレータを用いた走行実験を行い、詳細な運転行動の取得・分析を試みる。
 - ③ については、WHO の Global Status Report on Road Safety を用いた世界の交通事故死亡者数をシステムダイナミクスにより予測するプロトタイプモデルを構築した。次年度はモデルの精緻化に取り組む。

(2) 研究経過

- ・ 第 1 回日本チーム研究会 (R07.05.26)
日本・ベトナムプレアンケート結果報告、今年度各国アンケートの実施概要、DS 実験計画、マクロ分析方針
- ・ 第 1 回国際合同研究会 (R07.06.18)
日本・ベトナムプレアンケート結果報告、マレーシアプレアンケート報告、アンケート内容修正版の検討
- ・ 欧州調査の進め方打ち合わせ (R07.09.18) @デルフト
- ・ カタール調査の進め方打ち合わせ (R07.10.06)
- ・ インド調査の進め方打ち合わせ (R07.10.07)
- ・ 第 2 回国際合同研究会 (R08.02.17)
京都・アテネ・ウィーン比較調査結果報告、インドネシア、カタール、中国調査報告、内部報告会

プレゼン用の比較データ提供依頼、次年度調査会社による調査計画（マレーシア、ベトナム、カナダ）、次年度プロジェクト申請について

- ・日本コアメンバー会議（R08.02.25）

内部報告会報告資料、次年度アンケート実施方針、国際比較アンケートの分析方針、次年度 DS 実験計画

- ・第 2 回日本チーム研究会（R08.03.26）

学生メンバーの成果報告、来年度方針・計画

（3）プロジェクトメンバー（敬称略）

PL 塩見 康博 （IATSS 会員 / 立命館大学理工学部 教授）

大森 宣暁 （IATSS 会員 / 宇都宮大学地域デザイン科学部 教授）

紀伊 雅教 （IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科 教授）

中井 宏 （IATSS 会員 / 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授）

中村 英樹 （IATSS 会員 / 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授）

松橋 啓介 （IATSS 会員 / （国研）国立環境研究所社会システム領域 室長）

特別研究員（日本）

嶋本 寛 （宮崎大学工学部工学科 准教授）

鳥海 梓 （東京大学生産技術研究所 特任准教授）

西内 裕晶 （高知工科大学システム工学群 教授）

長谷川 知子 （立命館大学総合科学技術研究機構 教授）

An Minh Ngoc （立命館大学交通マネジメント工学研究室 客員准教授）

特別研究員（海外）

Wael Alhajyaseen （Associate Professor, Qatar University, Qatar）

Siti Raudhatul Fadilah （Lecturer, Sriwijaya University, Indonesia）

Viet Hung Khat （Chairman of the Board of Members, Hanoi Metro Company, Vietnam）

Yogeshwar V. Navandar （Assistant Professor, National Institute of Technology Calicut, India）

Nicolas Saunier （Professor, Polytechnique Montreal, Canada）

Nur S. A. Sukor （Associate Professor, University of Science, Malaysia）

Yilin Sun （Associate Professor, Zhejiang University, China）

Yusak O. Susilo （Professor, University of Natural Resources and Life Sciences, Austria）

Ari K. M. Tarigan （Associate Professor, University of Stavanger, Norway）

Owen Waygood （Professor, Polytechnique Montreal, Canada）

研究協力者

石間伏 皓瑛（大阪大学大学院 博士前期課程 1年）

奥井 涼太（立命館大学大学院 博士前期課程 2年）

上村 弥来（高知工科大学大学院 博士前期課程 1年）

八十島 将（立命館大学大学院 博士前期課程 1年）

米野 航（立命館大学大学院 博士前期課程 2年）

< 2505C >

XR を活用した事故メカニズムの解明と安全対策 ～北日本地域での異常気象時を中心に～

(1) 研究目的と概要

XR は現実社会と仮想世界を融合させる技術の総称であり、交通研究でも急速に活用されてきた。本研究では、視界不良など通常の手法では再現性が困難な交通状況を取り上げ、XR による実験およびその分析を通じて、具体的な対策提言を目的とする。

過年度までに、冬期の高速道路視程不良時および一般道交差点右折時や雪堤のある道路における運転支援方策の検討、外国人レンタカードライバーを対象に VR を用いた運転困難状況下における習熟運転など行ってきた。令和 7 年度はこれまでの成果をふまえ、様々な運転者に対応した望ましい HMI の提示、および国内外を含む雪道運転に困難をきたすドライバーを対象とした安全方策を提示する。

(2) 研究経過

- ・コアメンバー会議 (R07.05.08)
今年度プロジェクトの方針について議論・決定
- ・トヨタレンタリース札幌&北海道開発局と今年度計画について打ち合わせ (R07.06.02)
- ・第 1 回研究会 (R07.06.27)
今年度プロジェクトの進め方について・質疑
昨年度の研究成果報告
外国人ドライバーを対象とした VR 実験の説明・議論
高速道路視界不良時 VR 実験 (近畿大学) の説明・議論
- ・第 2 回研究会 (R07.09.18)
近畿大学予備実験結果総括
本実験に向けての実験内容の議論
- ・第 3 回研究会 (R07.12.12)
外国人ドライバー VR 習熟本実験視察結果の共有
近畿大学 VR 本実験結果の共有
- ・第 4 回研究会 (R08.02.13)
外国人ドライバー VR 習熟実験の分析結果報告・議論
近畿大学 VR 本実験の分析結果報告・議論
内部報告会への資料内容と作成計画共有

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 浜岡 秀勝 (IATSS 会員 / 秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻土木環境工学コース教授)

神田 直弥 (IATSS 会員 / 東北公益文科大学学長・教授)

平岡 敏洋 (IATSS 会員 / (一財) 日本自動車研究所 主席研究員)

特別研究員

蓮花 一己 (IATSS 理事 / 帝塚山大学 名誉教授 客員教授)
石附 弘 (IATSS 顧問 / 日本市民安全学会 会長)
飯田 克弘 (大阪大学大学院工学研究科 准教授)
佐藤 久長 (中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋 経営企画部 担当部長)
邢 健 (高速道路総合技術研究所交通環境研究部 交通研究担当部長)
鈴木 雄 (北海道大学大学院工学研究院 准教授)
高橋 翔 (北海道大学大学院工学研究院 准教授)
多田 昌裕 (近畿大学情報学部情報学科 准教授)
萩田 賢司 (科学警察研究所交通科学部交通科学第一研究室 主任研究官)
萩原 亨 (北海道大学 名誉教授)
洪 性敏 ((財団法人) 華城市研究院 都市環境研究室 研究委員)
二宮 芳樹 (名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所 特任教授)
森泉 慎吾 (帝塚山大学心理学部心理学科 准教授)
八木 雅大 (金沢大学大学院新学術創成研究科 特任助教)

研究員

福井 千菜美 (北海道大学大学院工学研究院 博士後期課程)
森本 貴大 (近畿大学大学院総合理工学研究科 博士前期課程)

< 2506A >

マレーシアにおけるバーチャル・リアリティ技術と「安全な学校」イニシアティブを組み合わせた交通安全教育プログラムの開発

(1) 研究目的と概要

順調な経済成長に伴い、モータリゼーションが急速に進む東南アジア諸国では、交通安全が大きな社会課題となっており、マレーシアもその例外ではない。とりわけ、交通弱者である子どもたちは大きなリスクにさらされている。そこで、本研究では、子どもたちの交通安全意識を高める交通安全教育プログラムの開発と、「安全な学校 (Safe School)」イニシアティブの実施を目指している。

そのために、IATSS フォーラム・マレーシア同窓会 (MIFA) と協働し、バーチャル・リアリティ技術を活用した交通安全教育プログラムを開発する。また、地域コミュニティと連携しながら、安全な通学路の環境整備や交通安全キャンペーンなどを含んだ、包括的な「安全な学校」イニシアティブを実施していく。

本研究プロジェクトの1年目である令和7年度は、クアラルンプール近郊の小学校2校を対象に、通学路や学校周辺の交通状況、横断施設の配置、車両速度、児童の横断行動などを調査し、教員・関係者へのヒアリングを通して交通安全教育上の課題とニーズを把握した。

その結果を踏まえ、現地の道路環境を再現したVR360横断行動シミュレーション教材を開発し、レッスン付き・なしの条件比較を含む実験を設計した。さらに、事前・事後アンケートおよびブルーブリックによる行動観察を実施し、安全意識や危険認知、意思決定能力の変化を検証した。

加えて、教育・インフラ・地域連携を柱とする Safe School の構成要素を整理し、次年度の実装に向けた基盤を構築した。

(2) 研究経過

・第1回研究会 (R07.05.23)

メンバー紹介

プロジェクト概要説明

合同研究ロードマップ作成

スケジュールと役割分担決め

・第2回研究会 (R07.07.17)

プロジェクトの準備状況について (MIFA より)

8月の出張について

・マレーシア出張 (R07.08.24-26)

マレーシア共同研究者たちと IATSS チームの合同調査として、下記を実施した。

MIFA との顔合わせと打合せ (VR 開発、学校での調査計画について)

アンパン地区とプトラジャヤ連邦直轄領の学校 (2校) 訪問

(ニーズ把握、通学環境理解、関係者ヒアリング、交通安全教育と調査計画の策定)

UiTM 訪問と VR360 開発企業との打ち合わせ

(開発中の VR360 コンテンツについて確認、プロジェクト説明とディスカッション)

政府機関 MIROS 表敬訪問 (プロジェクト説明、支援依頼)

- ・マレーシア共同研究者たちとのオンライン会議 (R07.10.09)
プロジェクトの組織体制再構築について
研究の進捗状況の報告
- ・現地研究者との打合せ (R07.12.05)
研究の進捗状況・パイロット調査の確認とフィードバック
- ・マレーシア共同研究者たちとのオンライン会議 (R08.01.23)
研究の進捗状況の確認とフィードバック
- ・第3回研究会 (R08.01.28)
研究の進捗状況の報告
内部報告会の準備
来期に向けて
- ・マレーシア共同研究者たちとのオンライン会議 (R08.02.02)
調査結果確認と今期最終報告に向けた準備

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 北村 友人 (IATSS 会員 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)

川口 純 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学文学部教育学専攻 准教授)

土井 健司 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)

平岡 敏洋 (IATSS 会員 / (一財) 日本自動車研究所 主席研究員)

吉田 長裕 (IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

芦田 明美 (名古屋大学大学院学国際開発研究科 准教授)

葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授)

Mr. Azmil Munif Mohd Bukhari

(MIFA メンバー Manager, Tourism, Langkawi Development Authority (LADA))

Ms. Awatif Abdul Ghapar

(MIFA メンバー Manager, Commute Initiatives / Bike Commute Malaysia)

Ms. Dato' Zuraidah Atan

(MIFA メンバー Advocate & Solicitor, Chambers of Zuraidah Atan)

Ms. Kauselya Muniandy

(MIFA メンバー Assistant Director, Human Capital Development Division, Ministry of Economy)

Ms. Khoo May Yin

(MIFA メンバー CIMB Bank)

Ms. Linza Wells

(MIFA メンバー Executive director, MDS Traffic Planners & Consultants)

Ms. Lo Zhen Zhen

(MIFA メンバー Senior Lecturer, Faculty of Medicine and Health Sciences, Universiti Malaysia Sabah (UMS))

Ms. Mazlina Zaira Mohammad

(MIFA メンバー Senior Lecturer, Faculty of Civil Engineering, Universiti Teknologi MARA)

Mr. Mohammad Sarimie Nurul Nizam

(MIFA メンバー Assistant Director, K-Economy Division, Ministry of Economy)

Ms. Nor Izzah Zainuddin

(MIFA メンバー Senior Lecturer, Faculty of Civil Engineering, Universiti Teknologi MARA)

Mr. Ridha Razak

(MIFA メンバー Director, Seetizens Lab)

Mr. Zain Azrai Zaaba

(MIFA 会長 Vice President, Human Capital, Lembaga Tabung Angkatan Tentera)

< 2507A >

睡眠負債による交通事故リスクを可視化するスクリーニング法の社会実装研究

(1) 研究目的と概要

睡眠不足は交通事故の重大な危険因子であり、5 時間未満の睡眠での運転は飲酒運転に匹敵するリスクを有するとされている。一方で、慢性的な睡眠不足による主観的な眠気と客観的パフォーマンスは乖離しやすく、問診のみでは検出が困難である。

本研究は、客観的覚醒度指標である Psychomotor Vigilance Test(PVT)を用いて、睡眠負債による事故リスクを可視化し、実務導入可能なスクリーニング法の確立を目的とする。

今年度は、パイロット調査として、JAF ロードサービス部 318 名を対象に、全国 9 拠点で勤務前後に 3 分間 PVT を実施した(延べ 4,922 回)。その結果、前日 6 時間未満睡眠で注意・危険判定が増加し、PVT 判定の注意群では約 2.2 倍(調整 OR=2.21)、危険群では約 6.2 倍(調整 OR=6.21)、ヒヤリハット経験の割合が高かった。

今後は測定手順・判定基準・フィードバック方法を標準化し、時間短縮と運用性向上を図るとともに、JAF 全国各支部での調査の展開、運送会社、高齢者講習への拡大を通じて、日常的安全管理に組み込める実装モデルを提示する。

(2) 研究経過

- ・ 第 1 回研究会 (R07.04.14)
 - メンバー紹介
 - 今年度のプロジェクト概要の説明
- ・ 第 2 回研究会 (R07.07.07)
 - 調査概要説明
 - 実施方法について
 - 調査項目について
 - 実施時期、フィールド調整について
- ・ 第 3 回研究会 (R07.12.17)
 - プロジェクトの進捗報告
 - 調査実施状況の報告
 - 内部報告会での報告内容
 - 次年度の計画
- ・ 第 4 回研究会 (R08.02.20)
 - 内部報告会資料確認
 - JAF 様 管理者 / 隊員アンケート結果について
 - 次年度の予定

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 谷川 武 (IATSS 会員 / 順天堂大学医学部公衆衛生学教室 主任教授)
浅野 水辺 (IATSS 会員 / 愛媛大学大学院医学系研究科医学専攻 教授)

大口 敬 (IATSS 会員 / 東京大学生産技術研究所 教授)
岡村 和子 (IATSS 会員 / 科学警察研究所 研究部長)
神田 直弥 (IATSS 会員 / 東北公益文科大学 学長・教授)
高橋 正也 (IATSS 会員 / (独) 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査
研究センター センター長)
土井 健司 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

特別研究員

蓮花 一己 (IATSS 理事 / 帝塚山大学 名誉教授 客員教授)
太田 和博 (IATSS 顧問 / 専修大学商学部 教授)
植田 結人 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 助教)
奥山 祐輔 (黒井産業(株) 黒井交通教育センター マネージャー)
朱 沁曄 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 助教)
友岡 清秀 (順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 客員准教授)
福島 史人 (埼玉県済生会加須病院 救急医学科 科長)

研究員

大坪 翼 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)

共同研究者

小野 浩 (株式会社本田技術研究所 先進技術研究所 知能化・安全領域)
新川 智 (本田技研工業株式会社 安全運転普及本部 交通安全ソリューション課)
光澤 茂信 (株式会社本田技術研究所 先進技術研究所 知能化・安全領域)

オブザーバー

奥平 賢治 (国土交通省 物流・自動車局 安全政策課 専門官)
喜多村 勇輔 (警察庁 交通局 運転免許課 講習係 係長)
寺島 英明 (警察庁 交通局 交通企画課 法令係 係長)

< 2508A >

街路樹のあるべき姿を探る

(1) 研究目的と概要

街路樹の倒木による死亡事故をきっかけに街路樹の在り方が大きな社会問題になりつつある。一方で、街路樹を含む都市の緑はグリーンインフラとして様々な機能を発揮することを期待されており、都市の魅力を高める要にもなっている。本調査研究プロジェクトでは、街路樹の歴史、整備や管理の実態、国外の制度や先進事例を調査し、日本におけるこれからの街路樹のあるべき姿を探り、具体的な提案をすることを目指す。

《令和7年度の結果概要》

- ・庭園から始まった街路樹は、実益により都市に定着
- ・国外では各国で車道を減らし植栽と歩道（自転車道）を増やす動きがあり、その背景には気候変動対策
- ・街路樹整備方法の標準化と機能の定量的評価の動き
- ・欧米から街路樹を導入した日本がアジア諸国の街路樹整備に影響を及ぼした歴史
- ・多様な主体が連携した街路樹の整備と維持管理

(2) 研究経過

- ・第1回研究会 (R07.04.25)
 - PL 挨拶
 - メンバー自己紹介
 - プロジェクト概要説明
 - 近年の街路樹の課題
 - 年間スケジュールについて
- ・日本学術振興会 海外特別研究員の山下様と街路樹歴史の情報共有会 (R07.06.30)
 - ヨーロッパの街路樹の歴史について日本学術振興会の山下さんが調査した結果を共有した。
- ・第2回研究会 (R07.07.07)
 - 埼玉県事例紹介
 - ウィーンの街路樹歴史紹介
 - 仙台視察の質問事項と視察希望先について
 - 今後のスケジュールについて
- ・街路樹の歴史を深掘りWG 第1回打合せ (R07.08.01)
 - 台湾、ライプツィヒ、ハンブルクなど様々な都市における街路樹の歴史と都市計画について議論し、今後の街路樹維持に関する研究のための潜在的な研究場所を検討した。
- ・仙台市視察 (R07.9.11-12)
 - 国内の好事例調査として仙台市へ視察を行い、建設局百年の杜推進課を訪問し、「街路樹マネジメント方針」および「街路樹更新計画」について、現場の実例を交えながら視察・ヒアリングを行った。
- ・欧州視察 (R07.11.05-16)
 - ドイツ（ハンブルク・ライプツィヒ）およびフランス（パリ）の3都市を視察し、先進的な街路樹

管理や都市緑化政策を調査した。ドイツの精密な樹木データベース管理や、フランスの公共交通と一体化した緑化手法など、維持管理や市民協働のあり方について貴重な知見を得ることができた。

- ・第3回研究会 (R07.12.04)

新メンバーのご紹介

欧州視察調査結果紹介

街路樹・都市樹木診断協会の取り組みについて

今後のスケジュールについて

- ・第4回研究会 (R08.02.10)

ソウル出張計画について

国総研の取り組みについて

内部報告会発表打合せ

- ・ソウル視察 (R08.02.18-20)

ソウル市における「人中心」の都市構造転換と街路樹管理を調査した。清溪川の復元や高架道路の公園化といった大規模再生事業を視察し、国レベルの強力な法制化による樹木管理体制や、データ活用と専門職による科学的な維持管理の実態を把握した。

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 一ノ瀬 友博 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)

岩貞 るみこ (IATSS 会員 / モータージャーナリスト)

押田 佳子 (IATSS 会員 / 日本大学理工学部まちづくり工学科 准教授)

小嶋 文 (IATSS 会員 / 埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)

柴山 多佳児 (IATSS 会員 / ウィーン工科大学交通研究所 上席研究員)

馬奈木 俊介 (IATSS 会員 / 九州大学大学院工学研究院都市・交通工学講座 教授)

村上 暁信 (IATSS 会員 / 筑波大学システム情報系 教授)

森本 章倫 (IATSS 会員 / 早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

松村 みち子 (IATSS 顧問 / タウンクリエイター 代表)

岩崎 寛 (千葉大学大学院園芸学研究科緑地環境学コース 環境健康学領域 教授)

竹内 智子 (千葉大学 大学院園芸学研究院ランドスケープ・経済学講座 准教授)

田島 夏与 (立教大学経済学部経済政策学科 教授)

山下 泰生 (日本学術振興会 海外特別研究員)

オブザーバー

石井 匡志 (一般社団法人 街路樹・都市樹木診断協会 技術委員長)

笠松 滋久 (一般社団法人 街路樹・都市樹木診断協会 副会長)

久保田 小百合 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 研究官)

小島 孝文 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 室長)

長浜 庸介 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 道路交通研究部 道路環境研究室 主任研究官)

橋本 浩良 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 道路交通研究部 道路環境研究室 室長)

< 2509C >

日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究

(1) 研究目的と概要

IATSS がラウンドアバウト (RAB) に関するプロジェクトに平成 21 年に着手して以来、継続的に調査研究を進めることで、導入検討調査～社会実験～社会実装～法改正に伴う本格展開と、各段階において着実に成果に結びついてきた。現時点では全国で 170 余の RAB が整備されるに至っているが、先進諸国の中での普及レベルにおいては未だ緒に就いたばかりの状況である。このため、国際的視点に立ちつつ、日本に相応しい RAB の普及を加速する必要性が高い。そこで本研究は、日本で RAB の普及を阻む課題を特定し、それらを排除するために必要な RAB 導入方針 (日本型 RAB) のコンセプトを提示するとともに、これらをセミナーなどを通じて積極的に発信していくことを目的とした。

令和 5 ～ 6 年度に実施した全国基礎自治体等へのアンケートとヒヤリング調査により、RAB に対する認知・理解不足と省スペース・省コスト型への高いニーズがあることを明確化した。これを踏まえ、昨年度の高知県と長崎県に加えて本年度は山口県でもセミナーを実施した。これらにより、少なくとも 4 つの社会実験・実装に結びついた。そのうち長崎県諫早市における小型 RAB の社会実験では、機能性を実証し、今後の小型 RAB 設計指針の策定に際して有用な知見を得た。また、上記アンケートとヒヤリングから得られた知見に加え、過年度プロジェクトで開発したデータベース分析と海外調査に基づき、日本で必要とする RAB 導入方針 (日本型 RAB) のコンセプトを提示した。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会 (R07.04.25)

各ワーキンググループ (WG1 ～ 5) の本年度の活動方針についての報告と議論

(WG1 : RAB 導入に際して課題となる事項のニーズ調査、WG2 : 海外動向調査、WG3 : 社会実験実施とデータ分析および日本型 RAB のスペック検討、WG4 : セミナー開催・導入促進、WG5 : データベースの更新)

・TRB ラウンドアバウト国際会議にて成果発表、現地視察 (米国ジョージア州アトランタ) (R07.06.08-12)

TRB 8th International Conference on Roundabouts and Geometric Design にて令和 2 ～ 4 年度プロジェクトで開発したデータベースと Web 公開システムについて発表、およびアトランタ周辺のラウンドアバウトの現地視察

・RAB セミナー (山口地域) 開催 (R07.07.29)

YMfg 維新セミナーパーク (山口県山口市) にて、山口地域の道路管理者 (国、県、自治体) と県警察本部を対象に、セミナー (情報提供、解説) と意見交換会 (具体的な計画事例を基にラウンドテーブルミーティング) を実施

・社会実験 (長崎県諫早市) 交通実態調査および打合せ (R07.08.24 ～ 26)

諫早市にて実施中の社会実験について構造改良後の交通実態調査、および諫早市役所との打合せ

・第 2 回研究会 (R07.10.07)

各ワーキンググループ (WG1 ～ 5) の活動進捗報告と議論

- ・ 社会実験 (長崎県諫早市) 現地視察および打合せ (R07.10.22)

諫早市にて実施中の社会実験について現地視察、および諫早市役所・長崎県警察本部・
長崎県住宅供給公社との合同協議

- ・ 現地視察 (長野県軽井沢町)(R07.10.29)

軽井沢町内の導入候補箇所の視察、および軽井沢市役所との意見交換

- ・ 第 3 回研究会 (R07.12.19)

各ワーキンググループ (WG1 ～ 5) の活動進捗報告と議論

- ・ 現地視察 (長野県飯田市)(R08.01.23)

飯田市内の整備箇所の現地視察、および飯田市役所との意見交換

- ・ 第 4 回研究会 (R08.02.16)

各ワーキンググループ (WG1 ～ 5) の活動進捗報告と議論

内部報告会の発表方針の検討

- ・ 社会実験 (長崎県諫早市) 現地視察および打合せ (R08.03.17)

諫早市にて実施中の社会実験について現地視察、および諫早市役所・長崎県警察本部
との合同協議

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 中村 英樹 (IATSS 会員 / 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)

井料 美帆 (IATSS 会員 / 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)

鈴木 弘司 (IATSS 会員 / 名古屋工業大学社会工学科 教授)

永田 潤子 (IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院都市経営研究科 教授)

浜岡 秀勝 (IATSS 会員 / 秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻土木環境工学コース
教授)

特別研究員

阿部 義典 (国際航業(株)インフラマネジメント部 フェロー)

上坂 克巳 (㈱片平新日本技研 専務取締役)

大橋 幸子 (国土技術政策総合研究所道路交通研究部道路交通安全研究室 室長)

奥城 洋 (セントラルコンサルタント(株)東北支社道路交通部 上級主任技師)

康 楠 (南京工業大学交通運輸工程学院 副教授)

神戸 信人 (㈱オリエンタルコンサルタンツ交通運輸事業部 副事業部長)

北村 明政 (国土交通省道路局環境安全・防災課道路交通安全対策室 企画専門官)

久坂 直樹 (パシフィックコンサルタンツ(株)中部支社交通基盤事業部 技術次長)

後藤 治樹 (警察庁交通局交通規制課 規制第二係長)

下川 澄雄 (日本大学理工学部 特任教授)

関口 貴志 (㈱建設技術研究所中部支社道路・交通部 グループ長)

高瀬 達夫 (信州大学工学部 教授)

高橋 健一 (三井共同建設コンサルタント(株)道路第一部 部長)

竹本 由美 ((一財)国土技術研究センター 上席主任研究員)

立田 安礼 (国土交通省道路局企画課 課長補佐)

張 馨 (名古屋大学大学院環境学研究科 講師)

水 誠治 (警察庁交通局交通規制課 課長補佐)
宮坂 好彦 (㈱建設技術研究所東京本社道路・交通部 主任技師長)
吉岡 慶祐 (日本大学理工学部 准教授)
米山 喜之 (㈱長大設計保全事業部設計保全1部 キャリア・エンジニア)
渡部 数樹 (㈱オリエンタルコンサルタンツ関東支社交通政策部 副部長)

研究協力者

上田 元太 (名古屋大学大学院環境学研究科 博士前期課程2年)

オブザーバー

松村 みち子 (IATSS 顧問 / タウンクリエイター 代表)
可児 誠 (名古屋市緑政土木局道路維持課 課長補佐(安全対策))
佐々木 智康 (飯田市建設部地域計画課 課長)
高橋 亮介 (名古屋市緑政土木局道路維持課 担当課長(安全対策))
多田 神 ((一財)国土技術研究センター 研究員)
中山 貴友 (㈱道路計画技術部 課長)
松平 博文 (飯田市建設部地域計画課 課長補佐)

< 2510C >

子育てしやすく子どもにやさしい交通環境実現のための教育・行動変容プログラムの開発と適用

(1) 研究目的と概要

人口減少・少子高齢社会に直面する我が国において、子育てしやすく子どもにやさしい交通環境の整備が喫緊の課題である。本研究は、子ども連れおよび子どもの移動に必要な交通ルールやマナーに関する教育プログラム、および親による過度な自動車送迎を抑制するための行動変容プログラムを開発・適用し、その効果を検証することを目的とする。最終目標として、国民の子ども連れ外出に関する「心のバリアフリー」醸成に貢献する「子ども連れ外出ポータルサイト」を実装する。

子ども連れ外出の大変さと安全な移動方法に関する講義および電動アシスト付き子ども乗せ自転車とベビーカーの体験を含む教育プログラムを開発し、「子育て予備軍」としての高校生・大学生、「孫育て予備軍」としての大人・高齢者、計4カ国16回531人に対して適用し、その効果を検証した。その結果、大学生のみならず大人・高齢者にも、心のバリアフリーを促進する可能性があり、海外でも、当該国・都市の文化／交通特性を反映したプログラムの実施により、安全な子ども連れ外出を促進できる可能性があることを明らかにした。

子どもの移動自由性(CIM)および親による自動車送迎の実態と意識、LRT開業による子育て世帯の交通行動の変化および情報提供によるCIM向上効果検証のためのWebアンケート調査を実施した。その結果、大都市と比較して地方都市では、施設配置・公共交通環境等によりCIMが低く、親の自動車送迎に依存せざるを得ない子育て世帯が多いこと、LRTなどサービスレベルの高い公共交通導入がCIM向上と親の自動車送迎減少に寄与し、具体的な情報提供によりその効果も高まる可能性があることを明らかにした。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R07.05.16)

「LRT導入による子育て世帯の自動車送迎の変化に関する研究～子どもの私事目的の外出に着目して～」の研究成果共有

令和7年度活動予定共有

- ・ロンドンでの子連れ外出調査と子ども乗せ自転車／ベビーカーワークショップ(R07.09.19-22)
- ・第2回研究会(R07.09.25)

子ども乗せ自転車／ベビーカーに関する配慮意識、子育てに対する興味・関心の変化に関するアンケート調査結果の共有

今年度の活動振り返り

子ども連れ外出ポータルサイトについての報告

- ・埼玉大学における子供づれ外出、ベビーカー、子供載せ自転車者ワークショップ(R07.11.12)
- ・クアラルンプールでの子連れ外出調査と子供づれ外出ワークショップ(R08.01.07-08)

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 大森 宣曉	(IATSS 会員 / 宇都宮大学地域デザイン科学部 教授)
北村 友人	(IATSS 会員 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)
小嶋 文	(IATSS 会員 / 埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)
土井 健司	(IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
松橋 啓介	(IATSS 会員 / (国研) 国立環境研究所社会システム領域 室長)
吉田 長裕	(IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

中村 文彦	(ATSS 副会長 / 東京大学大学院新領域創成科学研究科 サステイナブル社会デザインセンター 特任教授)
太田 勝敏	(IATSS 顧問 / 東京大学 名誉教授)
松村 みち子	(IATSS 顧問 / タウンクリエイター 代表)
浅野 周平	(福井大学工学部 講師)
北方 真起	(WALIFEPlanning 代表)
鈴木 春菜	(山口大学工学部建設工学科 准教授)
谷口 綾子	(筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授)
趙 勝川	(城西国際大学 教授)
土橋 喜人	(金沢工業大学 教授)
長谷川 万由美	(宇都宮大学教育学部 教授)

パラディ ジアンカルロス

(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 講師)

藤山 拓	(University College London 准教授)
松田 妙子	(NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事)
宮崎 耕輔	(香川高等専門学校 教授)

Nguyen Phuoc Quy Du (University of Science and Technology - The University of Danang)

Owen Waygood (Polytechnique Montréal 准教授)

Tran Thi Phuong Anh (Danang University of Science and Technology)

Yong Adilah Binti Shamsul Harumain
(Universiti Malaya)

研究協力者

加賀屋 瑠生	(宇都宮大学教育学部地域デザイン科学部 学部生)
狩野 大地	(福井大学大学院工学研究科 修士2年)
佐々木 優斗	(宇都宮大学大学院地域創成科学研究科 博士前期課程1年)
鈴木 春菜	(山口大学工学部建設工学科 准教授)
宋 浩然	(宇都宮大学大学院 博士後期課程2年)

< 2511C >

ウェルビーイング向上のための二輪車のブランディング —二輪車死亡・重症事故防止に向けた安全教育

(1) 研究目的と概要

2311A では二輪車の価値をウェルビーイングの観点から整理し、2411B では事故低減に焦点を当て JAMA との連携の下で脱落メカニズムを整理した。2511C では事故構造および相対運動の整理を踏まえ、ヘルメットの適正装着・締結行動を促す訴求教材の到達設計へ展開することを目的とした。

ITARDA マクロ交通事故データより、ヘルメット脱落率は方向・相対速度の影響が示唆された。また、JARI 模擬衝突実験より、衝突初期 0 ～ 0.05 秒の頭部とヘルメットの相対回転と締結条件の影響を整理した。

それらのエビデンスを背景にヘルメットのサイズならびにあご紐締結を訴求するために、若年層を未接触・未理解・未定着の三段階で整理する行動段階モデルを提示した。大学生の提案および高校生とのディスカッションを通じて行動段階モデルを構築した。具体例として、直球型フラッシュ CM を主軸に、比較型を補助設計として提示した。

成果である行動段階モデル設計と評価軸を連携先の JAMA の教育政策検討へ引き継ぐ。
到達点

技術整理を行動設計へ接続し、事故低減を前提としたウェルビーイング向上の基盤を整理。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会 (R07.05.28)

昨年度までのプロジェクトの振り返りと今年度のスコープ
ヘルメット脱落メカニズムの追加検証について
二輪交通事故マクロデータの詳細分析について
効率的なヘルメット着用訴求方法のトライアルについて
今後の予定
その他

・第 2 回研究会 (R08.02.18)

矢部高校二輪競技部とのヘルメットを正しく被る訴求教材についてのディスカッション
資料サクセスプロセスの説明
訴求教材 (ショート動画・試作) 複数案の提示
ディスカッション、意見交換
その他

・第 3 回研究会 (R08.02.25)

現在までの経過報告
ヘルメット脱落メカニズムの解明について
ヘルメットを正しく被る訴求教材の試作について

内部報告会の報告構成確認
その他

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 関根 太郎 (IATSS 会員 / 日本大学理工学部機械工学科 教授)
小川 和久 (IATSS 会員 / 東北工業大学総合教育センター 教授)
北村 友人 (IATSS 会員 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)
小早川 悟 (IATSS 会員 / 日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
小竹 元基 (IATSS 会員 / 東京科学大学工学院機械系 教授)
田久保 宣晃 (IATSS 会員 / (公財) 交通事故総合分析センター 研究部次長兼研究第一課長)
平岡 敏洋 (IATSS 会員 / (一財) 日本自動車研究所 主席研究員)

特別研究員

中村 文彦 (IATSS 副会長 / 東京大学大学院新領域創成科学研究科 サステイナブル社会デザインセンター 特任教授)
西本 幸正 (IATSS 顧問)
福田 敦 (IATSS 顧問 / 日本大学理工学部交通システム工学科 特任教授)
安藤 秀明 (日本自動車工業会 二輪車委員会 安全教育分科会 委員、カワサキ)
飯田 剛 (日本自動車工業会 二輪車委員会 安全教育分科会 分科会長、ホンダ)
大野 匠 (日本自動車工業会 二輪車委員会 安全教育分科会 委員、スズキ)
関根 栄子 (茨城大学学術研究院応用理工機械システム工学領域 専任講師)
早田 和正 (日本自動車工業会 二輪車委員会 安全教育分科会 委員、ヤマハ)
田代 邦幸 (合同会社 Office SRC 代表)
徳永 武雄 (本田技研工業(株) データアナリティクス 1 課 アシスタントチーフエンジニア)
富永 茂 (日本大学理工学部機械工学科 教授)
山田 慧 (日本自動車工業会 二輪車委員会 安全教育分科会 委員、ホンダ)

オブザーバー

緒方 友幸 (警察庁交通局 交通企画課 課長補佐)
奥村 敦 (警察庁交通局 交通企画課 係長)
金井 悟 (国土交通省物流・自動車局車両基準・国際課 係長)
志村 祐樹 (日本自動車工業会 次世代モビリティ領域 事務局)
牧 丈二 (警察庁交通局 交通企画課 交通安全企画官)
松坂 真史 (国土交通省物流・自動車局車両基準・国際課 車両安全対策調整官)
吉田 智宏 (日本自動車工業会 次世代モビリティ領域 事務局)

< 2512A >

モビリティ分野の GIG エコノミーをめぐる社会課題解決： インドにおけるラストマイル・バイク配送運転者を中心とした安全性向上 にむけて

(1) 研究目的と概要

インドでの二輪登録件数は年率 9%で増加しており、ラストマイル配送や企業間サプライチェーンの重要な輸送手段となっている。その一方で、二輪事故は交通関連死亡者数全体の 44.5%を占め、また、各種機関が報告している通りインドでは異常な高気温が発生しており、その影響で二輪運転者の判断能力等に影響を与える他、その不快感によりヘルメットを外してしまうなどの影響も発生している。GIG エコノミーを担う二輪運転者は、自身の安全面よりも高い報酬を目指すために無謀運転をすることも多く、彼らが属するプラットフォーム (PF) を含む社会システムには不備がある。本研究は、近年増加傾向にあるラストワンマイル配達を担う二輪運転者の事故リスク、異常高温の配達運転者への影響を理解し、行政・PF 側への対応策、配達バイク運転者に対する啓蒙活動内容の立案を目的とする。二輪が重要な役割を担う社会で、職業ライダーの労働環境を改善する事によって彼らの路上での安全性を高め、モビリティを通じた Wellbeing 向上を目指す。

本プロジェクトでは、インドの GIG ワーカーに対して、3 つの調査を実施し、二輪配送ライダーの現状を実証的に理解し、二輪配送ライダーの行動変容を目指す施策について検討してきた。具体的には、生理データ・GPS データ・質問紙調査を 50 名のライダーを対象に猛暑期と平温期に 2 度実施した。加えて、様々な道路上におけるライダーの(危険)運転行動や休憩施設を含む施設の調査、さらに、より広範な人数へのライダーの実態調査を実施した。3 つの調査の現時点での集計結果から「低所得層が従事」「長時間労働状態」「高気温による健康障害発生」「休憩施設等が未整備なことによる劣悪な環境」である点等を明らかにした。

今後は、当該データの詳細な分析を実施し、その成果をベースに、プラットフォームが受け入れ可能な収益に配慮した可変価格・可変手数料の導入等のナッジ的安全施策提案を策定・検証する(日本のケースで一部テスト済)。最終的には、収益面や収入面を担保しつつ、交通安全に資する説得的な施策を完成させる。

(2) 研究経過

- ・ IITD との打ち合わせ (R07.04.09)

GIG ワーカーに対する今年度調査のデザイン検討

- ・ プロジェクトに関するホンダとの情報共有会 (R07.04.18)

- ・ IITD、UCL との打ち合わせ (R07.05.26)

インセプションミーティング予定、調査予定、IATSS インド渡航予定、等の整合

- ・ 第 1 回日本チーム研究会 (R07.05.28)

プロジェクト趣旨と今年度の計画

- ・ インセプションミーティング@ IITD(R07.06.25)

プロジェクトメンバー (IATSS、IITD、UCL) の他、HMSI、プラットフォーム企業、コンサルタント、関係政府当局当のステークホルダーを招き、プロジェクトについての情報共有及び

議論を行った。

- ・第1回インド出張 (R07.08.21-23)

インドにおける調査の進捗報告と議論

GIG ワーカーへのヒアリング、ダークストア周辺の交通状況視察

HMSI の教習施設の視察

- ・IITD との次年度計画に関する打ち合わせ (R07.12.06)

- ・株式会社 ONIGO のヒアリング実施 (R07.12.19)

日本のデリバリープラットフォームの現状把握、及びインドにおける施策の考察に役立てるため、ヒアリングを実施。

- ・第2回インド出張 (R08.01.05-09)

1. プロジェクトチーム内の会合：今年度成果の共有と来年度計画の議論

2. ステークホルダーワークショップ：プロジェクトメンバー (IATSS、IITD、UCL) の他、HMSI、プラットフォーム企業、交通・安全・インフラ・健康・労働関連の団体代表や専門家を招き、プロジェクト成果についての情報共有及び議論を行った。

3. ダークストア周辺の交通状況視察

- ・IITD との打ち合わせ (R08.02.03)

内部報告会資料、及び来年度の調査計画

- ・第2回日本チーム研究会 (R08.02.23)

内部報告会資料、及び来年度のプロジェクト申請内容

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)

後藤 孝夫 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)

高橋 正也 (IATSS 会員 / (独) 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター センター長)

吉田 長裕 (IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員 (日本)

眞中 今日子 (中央大学経済学部 准教授)

特別研究員 (海外)

藤山 拓 (Senior Lecturer, University College London, UK)

Nicola Christie (Professor of Transport Safety, University College London, UK)

Kamalasudhan Achuthan

(Lecturer, University College London, UK)

Geetam Tiwari (Emeritus Professor, Indian Institute of Technology Delhi, India)

Deepty Jain (Assistant Professor, Indian Institute of Technology Delhi, India)

研究員 (日本)

杉山 拓海 (中央大学大学院)

< 2513B >

セーフシステムアプローチを用いたタイにおける二輪車重大事故削減施策検討

(1) 研究目的と概要

タイでは、二輪車の関わる事故件数、死傷者数は40%を占め、負傷者数では77%に上っている(2002年～2017年)。国際比較では、二輪事故による死亡率は世界で最も高く(2015年)、その多くは不適切な二輪車の運用にあることが報告されている。タイにおける日本ブランドの二輪車シェアが9割を占める一方で、その利用及び事故背景については明らかになっておらず、有効な交通安全対策の実施やそれらを支える政策体系についても十分に確立するまでには至っておらず、依然として高い交通事故死者数が報告されている。そこで、本プロジェクトでは、タイにおける交通事故の状況を踏まえた上で、交通安全計画の実施状況についてレビューを行い、セーフシステムアプローチの観点から現状の課題を整理する。

次に、二輪車利用者の観点から交通安全に関わるシステムがどのように機能しているのか調査を行い、重大事故の削減に繋がる実行可能な介入策の提案を行うものである。タイでは、WHOの介入により様々な道路交通安全システムに関する改善が進められているが、依然として高い交通事故死者数が報告されている。令和3年に策定された国家第5次交通安全マスタープランにおいて採用されているセーフシステムアプローチの実施状況を整理し、二輪車重大事故に対する、システム上の課題、システムの改善による介入策を提案する。

(2) 研究経過

・第4回研究調査部会(R08.01.08)

新たに始まる国際共同研究の関心・方向性との重複が見られることから、人員や予算の観点からも、国際共創部会の令和8年度からのプロジェクトに統合するため、本年度の2513B研究調査活動も、一旦停止。令和8年3月7日に開催される内部報告会では報告を行わない。

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 吉田 長裕 (IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

岡村 和子 (IATSS 会員 / 科学警察研究所 研究部長)

田久保 宣晃 (IATSS 会員 / (公財) 交通事故総合分析センター 研究部次長兼研究第一課長)

中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)

特別研究員

福田 敦 (IATSS 顧問 / 日本大学理工学部交通システム工学科 特任教授)

杉本 富史 (TMG コンサルティング 代表)

中西 盟 (交通心理学者)

藤山 拓 (University College London, Department of Civil, Environmental and Geomatic Engineering, UK Assoc. Prof. Dr)

葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授)

Chun-Chen Chou (Graduate School of Engineering Osaka University Phd student)

Divera Twisk	(Centre for Future Mobility/CARRSQ, Queensland University of Technology (QUT), Australia Adjunct Prof.)
Paramet Luathep	(ATRANS, Songkla University, Thailand Assoc. Prof. Dr)
Pawinee Iamtrakul	(ATRANS, Thammasart University, Thailand Assoc. Prof. Dr)
Sittha Jaensirisak	(ATRANS, Ubonratchathani University, Thailand Asst. Prof. Dr)
Varameth Vichiensan	(ATRANS, Kasetsart University, Thailand Assoc. Prof. Dr)

< 2514C >

都市はウォーカブルになるべきなのか？－データに基づく分野横断的議論－

(1) 研究目的と概要

今日のまちなか整備で「ウォーカブル」は望ましい将来像として位置づけられ、より歩きやすくするための工夫が数多く提唱されている。しかし、どのようなウォーカブルになればなぜ良いのか？

本研究はこの問題意識に立ち、客観的データをもとにして、多様なメンバーで議論することで、今後のウォーカブル推進において考慮すべき点を抽出し、より良好なまちなか空間の創出手法を構築することを目指す。

人流データの解析によって熱的快適性を向上させることで歩行行動を誘発できることを定量的に明らかにした。

リラックス効果や屋外での仕事の集中度の向上、個人の好みの場所の獲得などの直接的な pleasurability だけでなく、それらの効果があるという事実の共有がまちへの愛着を高めることも pleasurability になり得ることが示唆された。

国内外の事例調査から、日本では「都市計画からまちづくりへ」の象徴としてウォーカブルなまちづくりが位置づけられているが、広域化には「都市計画とまちづくり」の連携こそが重要であることが示された。

タイにおいて共同研究を開始し、タイでは安全性、舗装等の物理的な歩きやすさの比重が大きいものの、pleasurability 創出の必要性も共有された。

研究成果を論文等として発表するとともに、タイのナショナルファンドを使った共同研究の開始が決定。また国土交通省や自治体と協働して社会実装を目指す。

(2) 研究経過

・第1回研究会 (R07.09.30)

今後のウォーカブル空間整備への誘導の仕方、考え方について
タイでのシンポジウムに関して

・タイ・ワークショップに向けたタイ側大学との打合せ (R07.09.27-28)

チュラロンコン大学、タマサート大学と研究打ち合わせ

・タイ・チュラロンコン大学合同ワークショップ開催 (R08.01.11-12)

タイ・チュラロンコン大学にてワークショップを開催

チュラロンコン大学の研究者と共に、バンコク市のウォーカビリティ現地調査実施

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 村上 暁信 (IATSS 会員 / 筑波大学システム情報系 教授)

一ノ瀬 友博 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)

神田 直弥 (IATSS 会員 / 東北公益文科大学 学長・教授)

久保 正男 (IATSS 会員 / 防衛大学校 准教授)

小嶋 文 (IATSS 会員 / 埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)

後藤 孝夫 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)

柴山 多佳児 (IATSS 会員 / ウィーン工科大学交通研究所 上席研究員)

土井 健司 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

< 2515A >

災害からの復興を通じた立地変化と交通行動変化の相互作用の研究

(1) 研究目的と概要

自然災害、パンデミックなどのワイルドカードイベント(WCE)は、発生確率は低いが短期間に大きな影響をもたらし、人々の交通行動が大きく変化する。復旧課程では、災害：避難・仮設住宅や復興での立地構造変化、公共交通の長期運休と私的交通手段による埋め合わせ(自転車、自動車)がある。復興過程では都市・交通システムの変更による交通行動の中長期的変化に対して影響が及び、特に東日本大震災では自動車への依存度の高まりがみられた。長期的な持続可能性を損なうことなく、高められるよう復興の戦略が必要であり、発災前に準備しておく必要がある。

令和7年度(1年目)の成果

- ・ 日本(広島)、ドイツ(アール川流域)、スペイン(バレンシア)の事例から、発災前の構想や計画がその後の復興に大きく影響していることを確認した。
- ・ 研究会と視察(ケーススタディー)を通して論点を整理した
復興の政治的プロセス vs 制度的条件の違い(行政のかかわり方、鉄道関連)
どの程度から「都市構造が変わる程度の災害なのか？」
もともと自動車・バイク依存度の高い場所のケーススタディーの必要性
- ・ 今後の地理分析の基礎となるデータを日本国内4事例(東日本大震災、山形・飯豊、広島、熊本)から収集した。
- ・ 2年目の分析のためのデータ
- ・ 追加調査のための基礎データ

今後の展開

- ・ 初年度に収集した各種データと本年度の追加調査の結果を地理的・定量的に分析し、本研究の論点をデータから明らかにする
- ・ 初年度の調査と議論を通じて明らかになった論点・仮説を更に掘り下げて議論し、取りまとめに向けた方向性をまとめる

(2) 研究経過

- ・ 第1回研究会(R07.04.22)
挨拶・参加メンバーによる自己紹介
プロジェクトの背景、概要と令和7年度の活動計画
話題提供1(柴山)
話題提供2(金森)
話題提供3(鈴木)
後の進め方、スケジュール
- ・ 第2回研究会(R07.07.30)
初参加の方の簡単な自己紹介
話題提供：地震・豪雨災害の概略
データ収集・整理の体制と内容の概略

共有フォルダの構造化、学生アルバイトの方への詳細な説明会、広島視察と次回研究会について

・ バレンシア・ドイツ視察 (R07.10.09-17)

公共交通復旧に関するヒアリング、被害・復旧状況の視察 (バレンシア)

災害復旧に関するヒアリング (バレンシア市役所)

公共交通復旧および洪水対策に関するヒアリング (Ahrweiler 郡役所)

DB InfraGO AG へのヒアリング (ケルン)

・ 広島豪雨災害被災地視察 (R07.11.27-28)

八木地区の被災地、伝承館視察

天応大浜アパート、天応城西公園視察

呉市天応市民センター ヒアリング

・ 第 3 回研究会 (R07.11.27)

広島豪雨などに関する話題提供と質疑応答 (話題提供 : 10 分、質疑応答 : 10 分) 合計 100 分

進矢 光明様 (広島電鉄株式会社 交通政策本部)

勝部 尚己様 (広島電鉄株式会社 バス事業本部)

山口 晃弘様 (JR 西日本 広島支社)

亀岡 敬和様 (国土交通省 中国地方整備局 道路部)

長尾 拓哉様 (広島国際空港株式会社 航空営業本部 利用促進部)

神田 佑亮先生 (呉工業高等専門学校)

バレンシアとドイツの視察の報告 (速報) 15 分 : 安藤先生

・ 第 4 回研究会 (R08.02.12)

欧州視察の詳細

学生さんが収集したデータの概要

内部報告会に向けたまとめ案と、それに対するディスカッション、意見交換

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 柴山 多佳児 (IATSS 会員 / ウィーン工科大学交通研究所 上席研究員)

一ノ瀬 友博 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)

大木 聖子 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学環境情報学部 准教授)

松橋 啓介 (IATSS 会員 / (国研) 国立環境研究所社会システム領域 室長)

三浦 詩乃 (IATSS 会員 / 中央大学都市環境学科 准教授)

特別研究員

安藤 宏恵 (名古屋大学 未来材料・システム研究所 助教)

金森 貴洋 (株式会社パスコ・SFC 研究所上席所員)

鈴木 さち (世界銀行 南アジア地域総局 インフラレジリエンス・政策・金融ユニット)

力石 真 (広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授)

中西 航 (東京科学大学 環境・社会理工学院 土木・環境工学系 特任准教授)

中村 絵里 (神戸大学大学院経営学研究科・経営学部 教授)

藤田 知也 (北海学園大学経済学部地域経済学科 准教授)

Ebru Vesile Öcalır (Gazi University, Turkey, Transport Geography)

< 2520A >

自動運転車を日常生活で安心して使うための安全基準 —ガイドラインの整備・点検

(1) 研究目的と概要

自動運転車の社会実装は令和7年度から加速され、ロボット・タクシー等の利用が開始される。これは、様々な交通需要に対応する望ましい流れだが、自動運転車が最低限具備すべき安全性や事故時の責任分担は不明確なままである。この点を明確にし、自動運転車の社会的信頼を向上させることを目指して、令和6年度2402Cプロジェクトでは「ガイドライン」を作成した。この成果を踏まえ、本社会貢献プロジェクトでは、自動運転車の利用者、メーカー、運行事業者及び行政等の声を集約しつつ「ガイドライン」をより良いものとし、日英版として公表する。この活動を通じて、自動運転車の社会的信頼の継続的確保を目指し、利用者の生活水準の向上に貢献したい。

(2) 研究経過

- ・コアメンバー会議 (R07.05.08)
今年度プロジェクトの方針について議論・決定
- ・トヨタレンタリース札幌&北海道開発局と今年度計画について打ち合わせ (R07.06.02)
- ・第1回研究会 (R07.06.02)
新メンバー紹介
今年度プロジェクト内容説明
昨年度プロジェクト2402C 外報アンケート回答まとめの共有
ガイドラインの説明と議論
- ・鳥取市および大阪万博会場視察 (R07.08.06-07)
- ・第2回研究会 (R07.10.08)
現地視察結果報告
ガイドラインの内容議論
- ・北海道庁、高裁、高検を訪問 (R08.02.24-26)
ガイドライン内容の説明と意見交換
- ・第3回研究会 (R08.02.27)
ガイドライン(ブックレット)の内容確認・議論
内報資料の内容確認・議論視察結果の報告・議論

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

- PL 今井 猛嘉 (IATSS 会員 / 法政大学法科大学院 教授・弁護士)
岩貞 るみこ (IATSS 会員 / モータージャーナリスト)
木林 和彦 (IATSS 会員 / 東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・基幹分野長)
中尾田 隆 (IATSS 会員 / 池袋南法律事務所 弁護士)
中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)
平岡 敏洋 (IATSS 会員 / (一財) 日本自動車研究所 主席研究員)

安井 裕司 (IATSS 会員 / (株) 本田技術研究所 エグゼクティブチーフエンジニア)
吉田 長裕 (IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

石附 弘 (IATSS 顧問 / 日本市民安全学会 会長)
喜多 秀行 (IATSS 顧問 / 神戸大学 名誉教授)
杉本 洋一 (IATSS 顧問)
鶴賀 孝廣 (IATSS 顧問)
古川 修 (IATSS 顧問 / 電動モビリティシステム専門職大学 教授・学長上席補佐)
宮寄 拓郎 (IATSS 顧問 / 救急ヘリ病院ネットワーク 理事)
小川 貴裕 (アディーレ法律事務所 弁護士)
小田 有哉 (小山記念病院 救急科 医師)
佐藤 秀貴 (東京臨海病院救急科 医師・部長)
佐藤 昌之 (ITS Japan 法務主査)
塩野 皓士 (エス・アイ・ピー株式会社 執行役員)
清水 和夫 (モーター・ジャーナリスト)
膳場 百合子 (早稲田大学理工学術院 教授)
高山 寧 (フォルシア株式会社 顧問・ニューヨーク州弁護士)
長谷川 晃 (北海道大学大学院法学研究科 名誉教授)
波多野 邦道 (本田技研工業株式会社事業開発部エグゼクティブチーフエンジニア)
山本 和毅 (一般財団法人 ITS サービス高度化機構 監事)

Lebreton Caroline

(法政大学通信教育部・法学部 非常勤講師)

オブザーバー

成富 則宏 (警察庁交通局交通企画課自動運転企画室 室長)
沼田 裕璃 (警察庁交通局交通企画課自動運転企画室 課長補佐)

< 2521A >

カンボジアにおける探究型学習を通じた交通安全教育

(1) 研究目的と概要

カンボジアでは、年々、交通事故による損害額が増加しており、2023 年には約 690 億円にも達した。国家交通安全委員会によると交通事故の原因として、無謀運転、飲酒運転、不注意運転等が挙げられており、オートバイのヘルメット不着用の死亡事故が目立つと報告されている。

このような状況を受け、2022 年度に IATSS フォーラム・カンボジア同窓会 (CIAA) が JICA と連携しながら、行動変容プログラム・チームを立ち上げ、現地での実態把握を行い、交通安全教育のテキストを作成した。

本研究では当該実態調査の結果やテキストも活用しつつ、カンボジアの子どもたちの交通安全リテラシーをより一層、高めるべく学校内で探究型の課題解決学習を促進する。交通事故を減らすために「何をしなければならないのか」を自分たちで考え、行動に移すことを促進する。子どもたちの安全意識、交通安全リテラシーを高める教育プログラムを開発すると共に、地域社会の交通事故減少にも寄与することを目的とする。

今年度は 4 月より現地の連携先を通して、調査設計と実行準備 (教員へのワークショップも含む) を行い、実際に 12 月から 1 月の 2 か月間、探究学習を用いた交通安全教育授業を、カンボジア教員養成大学附属オベコム中学校の 3 クラスで導入した。学習の前後で質問紙調査とインタビュー調査を実施したところ、子どもたちの協調性や発言力の向上が成果として見られた。一方、高次思考力やマネジメント能力には明確な変化が見られなかった。また、教員の高い同僚性や他の授業への応用など副次的な効果も確認できた。カンボジア教育省より、MOU 締結、全国の教員養成課程での交通安全教育テキストの活用を提案される成果にも結びついた。

(2) 研究経過

- ・コアメンバー会議 (R07.04.21)

年間活動計画打ち合わせ

- ・第 1 回研究会 (R07.05.27)

メンバー紹介

プロジェクト概要の説明

今後の進め方、スケジュール

- ・第 2 回研究会 (R07.07.29)

調査枠組みの再確認

インタビューガイドの検討

質問紙調査票の検討

CIAA 実施予定の教科書活用ワークショップの内容検討

- ・カンボジア出張 (R07.08.02-05)

現地の NGO サラスースと、中学校での探究型学習の実践、調査の詳細につき、打ち合わせを実施した。また CIAA メンバーとワークショップの開催について打ち合わせを実施した。

- ・第 3 回研究会 (R07.09.09)

10 月 CIAA 実施予定の教科書活用ワークショップについて (Ms. Heang Omuoy)

8 月出張報告(調査枠組み、インタビューガイド、質問紙調査票の検討)

今後の研究について

- ・第 4 回研究会 (R07.11.26)

Omuoy さんのワークショップ進捗報告

探究型学習の進捗状況報告

データ分析、報告書作成等の役割分担について

- ・カンボジア出張 (R08.01.12-15)

現地の NGO サラスースと、調査の詳細につき打ち合わせを実施するとともに、対象の学校に赴き、校長や担当教員と意見交換(質的調査)を実施した。教育省において、教育副大臣と本事業の成果の活用方法や今後の交通安全教育について意見交換を実施し、教員養成大学(国立教育研究所)と、教育省教員養成局とも意見交換を行った。また、特別研究員の Ms. Heang Omuoy と、ニュー・ジェネレーション・スクールにて交通安全ワークショップを行った。

- ・コアメンバー会議 (R08.02.17)

調査結果分析、解釈検討、結果まとめ

- ・第 5 回研究会 (R08.02.24)

プロジェクトまとめ、内報資料の確認

来期以降のプロジェクトについて、他

- ・今後の展開

教育省と MOU を締結し、学会として探究型学習を通じた交通安全教育に継続的に貢献するとともに、探究型学習の成果を実証的に検討する。

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 川口 純 (IATSS 会員 / 慶応義塾大学文学部教育学専攻 准教授)

神田 直弥 (IATSS 会員 / 東北公益文科大学 学長・教授)

北村 友人 (IATSS 会員 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)

土井 健司 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

芦田 明美 (名古屋大学大学院国際開発研究科 准教授)

萩巢 崇世 (東京大学大学院教育研究科 准教授)

山上 莉奈 (JICA 人間開発部)

葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授)

Heang Omuoy (CIAA メンバー)

オブザーバー

青木 健太 (NGO サラスース)

須藤 菜々子 (NGO サラスース)

< 2522A >

小型電動モビリティの受容性、安全性向上に向けた環境整備に関する研究成果の展開

(1) 研究目的と概要

先行プロジェクト(2312A、2412B)では、道路交通法改正後の現地調査や国内外の事例調査を通じて、車道 / 歩道を利用する小型電動モビリティ(主に電動キックボード)に関する検討を深めることや、単路・交差点等での課題と対応策を整理した。また、構内実験を踏まえて、歩行者、自転車や小型電動モビリティ利用者にとって安全で受容される道路横断面構成を示唆した。さらに、小型電動モビリティ(電動キックボード(特定小型))の安全な利用方法について、運転免許非保有者への安全教育のためのコンテンツ作成を進めた。しかし、海外で得た様々な知見や調査分析結果を含めた成果物の取りまとめや国内への成果公表には至っていない。

そこで、本プロジェクトでは、小型電動モビリティの受容性、安全性向上に資する一般の方にも理解しやすい広報教材を作成すること、国内外でのワークショップや講演会・講習を行い、過年度の研究成果を社会に広めることを目的として研究活動を進める。

本年度の研究成果は主に以下の3点である。

1. 関係者・利用者の意向を汲み取った広報教材資料の検討

道路行政・事業者との意見交換、主たる利用者層へのアンケートを通じて、受容性・安全性向上に向けて伝えるべき事項、利用者にとってわかりやすい内容の精査を行うことができた。

2. 市民向けイベントの開催(仙台サミット)

自転車や小型電動モビリティの利用拡大に伴い、求められる交通ルール遵守と安全行動の徹底に向け、「共存と安全推進」をテーマに掲げたイベントを実施し、行政、学識、利用者が参加する分科会での議論を通じて「走行空間、混合交通、ながら運転」の課題に対する提言を発信できた。

3. 国際会議(WCTR2026)でのセッション企画

過年度成果にもとづき、セッションの企画を進めることができた。

(2) 研究経過

・第1回研究会(R07.04.23)

メンバー紹介

過年度振り返り

本年度プロジェクトの進め方

今年度のスケジュール等の確認

・道路管理者・株式会社 Luup 打合せ(R07.06.04)

株式会社 Luup による安全教育や警告システムの概要、国土交通省中部地方整備局による自転車通行空間整備の考え方について共有、今後に向けた安全教育教材の作成方針案について議論した。

・WG3 国際会議 第1回打合せ(R07.06.09)

WCTR2026 に向けた特別セッションの構成と進行方針について議論した。

- ・WG1 教材開発 第1回打合せ (R07.06.16)
過年度の成果の共有と今年度の教材開発について議論を行い、開発スケジュールを作成した。
- ・WG2 講習会・講演会 第1回打合せ (R07.07.15)
8月の日本大学オープンキャンパスで行う電動キックボード試乗体験において調査の実施内容を協議した。
- ・仙台サミット打合せ (R07.07.18)
11月に向けた講演会として、仙台市でサミットを企画しサミットの構成を議論した。
- ・第2回研究会 (R07.07.28)
WG3 WCTR の内容説明
WG1 教材の内容説明
WG2 日大オープンキャンパスの内容説明
- ・日本大学オープンキャンパスにおける広報教材の効果測定 (R07.08.01)
日本大学理工学部船橋キャンパスにて、オープンキャンパスのアンケート調査および打合せを実施した。
- ・鈴木達人先生との打合せ (R07.08.17)
2026年 WCTR に向けた論文の内容について打合せを行った。
- ・仙台サミット分科会2 第1回打合せ (R07.08.28)
分科会2(電動小型モビリティを含む混合交通の共存)の進め方や、話題提供者の選出についての議論を行った。
- ・仙台サミット分科会1 第1回打合せ (R07.08.29)
分科会1(走行空間等のハード面)の進め方や、話題提供者の選出についての議論を行った。
- ・仙台サミット分科会2 第2回打合せ (R07.10.15)
サミット当日の進行の進め方や会場レイアウト、会場準備について打合せを行った。
- ・第3回研究会 (R07.10.29)
WG1 仙台サミットの進捗説明
WG1 教材の検討状況
WG2 日大オープンキャンパスの結果報告
その他 (WG3 WCTR 投稿状況等)
- ・仙台サミット分科会3 第1回打合せ (R07.11.10)
分科会3(安全運転の本質について)の当日の進め方や、安全運転のあり方について議論を行った。
- ・仙台サミット開催 (R07.11.26)
令和7年11月26日に仙台にて開催された「市民のための交通安全サミット」は、29名が参加し、自転車や電動キックボードの安全な走行環境整備、および「ながら運転」厳罰化を背景とした安全意識の本質について、3つの分科会を通じて具体的な提言をまとめた。
- ・株式会社 Luup インシデントデータ打合せ (R07.12.17)
- ・WG3 国際会議第2回打合せ (R08.01.26)
国際会議(WCTR2026)への論文投稿状況や、国内向けの一般向け教材・出版物の作成方針、実証実験を通じたデータ収集の計画について議論した。

・ 第 4 回研究会 (R08.02.16)

仙台サミットの報告

LUUP 社インシデントデータ分析の報告

内部報告会発表内容打合せ

(3) プロジェクトメンバー (敬称略)

PL 鈴木 弘司 (IATSS 会員 / 名古屋工業大学社会工学科 教授)

井料 美帆 (IATSS 会員 / 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)

小川 和久 (IATSS 会員 / 東北工業大学総合教育センター 教授)

神田 直弥 (IATSS 会員 / 東北公益文科大学 学長・教授)

小竹 元基 (IATSS 会員 / 東京科学大学工学院機械系 教授)

柴山 多佳児 (IATSS 会員 / ウィーン工科大学交通研究所 上席研究員)

関根 太郎 (IATSS 会員 / 日本大学理工学部機械工学科 教授)

特別研究員

猪井 博登 (富山大学 都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 准教授)

鈴木 一史 (静岡理工科大学 理工学部 土木工学科 准教授)

鈴木 立人 (University College London 研究技官)

高田 実宗 (駒澤大学法学部 准教授)

立松 秀樹 (㈱オリエンタルコンサルタンツ 中部支社交通政策部 部長)

吉岡 慶祐 (日本大学理工学部 交通システム工学科 准教授)

Alhajyassen Wael

(カタール大学 准教授)

研究協力者

伊藤 大貴 ((株) 長大)

佐々木 啓太 (名古屋工業大学大学院 博士後期課程 2年)

共同研究者

池上 翔 (株式会社 Luup 渉外部 部長)

高木 僚平 (株式会社 Luup COO 室 室長代理)

森 庸太郎 ((株) ストリーモ)

オブザーバー

戸田 和希 (警察庁交通局交通企画課 係長)

永沢 はな (警察庁交通局交通企画課 課長補佐)

< 2570 国際発表 >

2406C 人工知能を用いた効率的な事故防止対策に関する研究

(1) 研究目的と概要

「国際発表」プロジェクトは、以下の目的のため、前年度に実施した研究プロジェクトの中から、著しい成果の認められたプロジェクトに対し、国際的な会議等で発表する機会を設けるものである。

目的：

- ・ IATSS の研究成果を国際的に広く周知すること
- ・ 期待される若手研究者に国際的な会議への参加の機会を提供すること
- ・ IATSS の国際的な認知度を向上させること

(2) 実績

2406C 「人工知能を用いた効率的な事故防止対策に関する研究」

・ 発表イベント

イベント名：International Conference of Asia-Pacific Planning Societies 2025

開催地：台湾・新竹市 中華大学 (現地参加)

期間：令和7年8月20～22日

発表者：栗原 豊季 (早稲田大学創造理工学研究科建設工学専攻 修士課程)

・ 発表テーマと内容

タイトル：「Research on Development and Operation of the Traffic Enforcement Support System Using Artificial Intelligence」(取締り活動支援システムの開発と運用に関する研究)

発表形式：口頭発表 (発表 15 分、質疑 5 分)

(3) プロジェクトリーダー (敬称略) 及び発表者

2406C 「人工知能を用いた効率的な事故防止対策に関する研究」

PL：森本 章倫 (早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

発表者：栗原 豊季 (早稲田大学創造理工学研究科建設工学専攻 修士課程)

4. 令和 7 年度研究調査内部報告会 (R08.03.07)

参加者 : 役員、評議員、顧問、会員および特別研究員 計 143 名
場所 : 対面及びオンラインでのハイブリッド開催
報告テーマ : 令和 7 年度実施の全プロジェクトテーマ

5. 研究調査部会

(1) IATSS サロン

- ・ 第 1 回 IATSS サロン (R07.12.05)

講演タイトル : 『YOKOHAMA AIR CABIN の企画・開発から運営開始まで、そして都市交通のこれからの戦略』

講演者 : 表 久紀氏、船田 昌宏氏

出席者 : 12 人 (対面開催)

- ・ 第 1 回 IATSS サロン (視察) (R07.08.21-22)

札幌市創成川通

小樽オーバートーリズム

特定 NPO 法人ポロクル

出席者 : 会員 9 人

(2) 部会開催実績

第 1 回 (R07.06.02)

- ・ 昨年度委員会レビュー
- ・ 今年度活動方針
- ・ 今年度課題検討

第 2 回 (R07.07.29)

- ・ 内、外報実施方法
- ・ 研究調査プロジェクト審査方法
- ・ IATSS サロン活動方針
- ・ 課題継続検討

第 3 回 (R07.10.20)

- ・ 令和 8 年度 ATRANS 研究調査カテゴリの決定
- ・ IATSS ビジョン 2024 対応
- ・ 次年度プロジェクト選考関連

第 4 回 (R08.01.08)

- ・ 内部報告会のスケジュールについて
- ・ プロジェクトの提案予算に応じた審査基準

- ・昨年度の一次審査、2次審査の振り返りと問題点对応
- ・アジア地域の2R事故削減に向けた持続可能な体系的取り組み

第5回(PL会議)(R08.03.09)

- ・外報発表プロジェクト選考
- ・国際発表プロジェクト候補選考
- ・令和8年度研究調査プロジェクトの一次選考

(3) 研究調査部会メンバー(敬称略)

部会長	一ノ瀬 友博	(IATSS 会員 / 慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)
副部会長	高橋 正也	(IATSS 会員 / (独) 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター センター長)
	大口 敬	(IATSS 会員 / 東京大学生産技術研究所 教授)
	神田 直弥	(IATSS 会員 / 東北公益文科大学 学長・教授)
	鈴木 弘司	(IATSS 会員 / 名古屋工業大学社会工学科 教授)
	関根 太郎	(IATSS 会員 / 日本大学理工学部機械工学科 教授)
	堀口 良太	(IATSS 会員 / ㈱アイ・トランスポート・ラボ 顧問)
	松橋 啓介	(IATSS 会員 / (国研) 国立環境研究所社会システム領域 室長)
	吉田 長裕	(IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

6. 国際共創部会

1) 国際共創部会立上げ

IATSS の国際活動全般を統括し、国際連携時の IATSS 側として活動するため、また、2050 年を想定した各取り組みの相互関係を勘案し、IATSS 側の司令塔としての役割を担う部会として、令和7年度より国際共創部会を立ち上げた。

(1) 国際共創部会

①団体連携の現状整理

これまで関係を構築した諸団体との連携の必要性や、具体的な連携の形を検討した。また、部会内の担当委員を決め、必要に応じて連携先の会合やイベントへの参加、部会での情報共有を行った。

②具体的な事業の企画推進のため、部会の下に下記の「タスクフォース」、「ワーキンググループ」を設置した。(活動概要は(2)～(5)に記載。)

- ・ ATRANS/ 内閣府との共同研究企画推進のための「タスクフォース」を設置した。
- ・ 新規海外調査の企画推進のための「ワーキンググループ」を設置した。
- ・ ポスト GIFTS の企画推進のための「タスクフォース」を設置した。
- ・ JICA連携推進のための「タスクフォース」を設置した。

③部会開催実績

第1回 (R07.05.14)

- ・顔合わせ
- ・国際共創部会のミッション
- ・IATSS 国際連携強化の目的
- ・緊急度の高い4団体に関する議論 (ATRANS、ESRA、TRUST、IRF)

第2回 (R07.07.14)

- ・IATSS 国際連携強化の目的・目標 (改訂確認)
- ・前回検討の4団体 (ESRA、TRUST、ATRANS、IRF) に関する決定事項確認
- ・5団体 (ICSC、JICA、APRSO、UNRSC、GA of NGOs) についての検討
- ・IATSS 国際共創の戦略

第3回 (R07.07.31)

- ・現状の10団体連携の概要と課題：残り1団体 (TARC) 検討
- ・連携団体との活動状況報告
 - ① ESRA(+ TRUST) の進捗報告
 - ② JICA 連携：フィリピン事業についての提案
 - ③ ATRANS/ 内閣府共同研究タスクフォースの設定と進捗報告
- ・海外調査 (これまでの海外調査振り返りと今後の検討・ワーキンググループの設置)

第4回 (R07.10.07)

- ・ATRANS/ 内閣府共同研究タスクフォース進捗
- ・APRSO カンファレンス及び総会への参加報告 (Non-Voting member 申請情報の共有と今後の連携のあり方議論)
- ・海外調査ワーキンググループの実施報告と今後の展開
- ・IRF との MOU 情報共有
- ・国際共創戦略の「施策」(ロードマップ) の検討

第5回 (R07.12.18)

- ・「ポスト GIFTS」の検討・タスクフォースの設置
- ・APRSO Non-voting member 申請内容案の検討
- ・フィリピンにおける交通安全事業・具体の実施内容提案
- ・海外調査ワーキンググループより詳細の報告
- ・ESRA：国際共創部会からの検討依頼事項の推進について報告
- ・ATRANS/ 内閣府共同研究タスクフォース進捗 (12/12 ATRANS 理事会報告)
- ・IRF との MOU 締結 (11/17) 報告

第6回 (R08.03.13)

- ・国際共創部会の構造 (事業推進に係る体制) 整理
- ・APRSO Non-voting member 申請内容最終確認

- ・ GIFTS タスクフォース検討進捗 (2/27 TF の報告)
- ・ 海外調査進捗 (3/11 WG での選考結果・実施体制等報告)
- ・ ATRANS/ 内閣府共同研究タスクフォース進捗 (方向性と今後の計画)
- ・ 団体連携の進捗報告

①カンボジア教育省との MOU (JICA 連携)

② TARC 進捗報告

③ ESRA 進捗報告

④国際共創部会メンバー (敬称略)

部会長 北村 友人 (IATSS 会員 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)

副部会長 中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

部会員 秋山 秀樹 (IATSS 会員 / 本田技研工業㈱ チーフエンジニア)

一ノ瀬 友博 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)

川口 純 (IATSS 会員 / 慶應義塾大学文学部教育学専攻 准教授)

紀伊 雅敦 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科 教授)

塩見 康博 (IATSS 会員 / 立命館大学理工学部 教授)

柴山 多佳児 (IATSS 会員 / ウィーン工科大学交通研究所 上席研究員)

関根 太郎 (IATSS 会員 / 日本大学理工学部機械工学科 教授)

高石 秀明 (IATSS 顧問 / 本田技研工業㈱エグゼクティブチーフエンジニア
安全企画部部長 安全運転普及本部事務局長)

馬奈木 俊介 (IATSS 会員 / 九州大学大学院工学研究院都市・交通工学講座
教授)

(2)ATTRANS/ 内閣府共同研究タスクフォース

タイを拠点に交通安全に資する国際共同研究を実施し、成果を広くアセアンへ展開していくため、タスクフォースを組織した。

今年度は、ヒアリング調査によるタイの課題とニーズの把握、共同研究の方向性議論、3 か年計画の策定、及び 1 年目の研究活動内容と実施体制の検討を行った。

今後の展開にあたっては、JICA、ATTRANS、内閣府との継続的な連携を軸に、タイ政府、日本企業・団体、タイ企業・団体なども視野に、広く連携をはかっていく。

①タスクフォースメンバー (敬称略)

リーダー 北村 友人 (IATSS 会員・国際共創部会部会長 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)

メンバー 秋山 秀樹 (IATSS 会員・国際共創部会部会員 / 本田技研工業㈱ チーフエンジニア)

中村 彰宏 (IATSS 会員・国際共創部会副部会長 / 中央大学経済学部 教授)

森本 章倫 (IATSS 会員・企画調整委員会委員長 / 早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員・国際共創部会副部会長 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

内海 大輔 (特別協力者 / 内閣府政策統括官 (共生・共助担当) 付 交通安全企画
第一担当)

黒木 一義 (特別協力者 / 本田技研工業(株) 安全運転普及本部 地域安全企画推進課)
 小林 真緒 (特別協力者 / 内閣府政策統括官(共生・共助担当)付 交通安全企画
 調査担当 専門職)
 須原 靖博 (特別協力者 / 独立行政法人 国際協力機構 社会基盤部運輸交通グ
 ループ第一チーム)
 大東 百菜実 (特別協力者 / 独立行政法人 国際協力機構)
 野崎 裕之 (特別協力者 / 本田技研工業(株) 安全運転普及本部)
 松江 大輔 (特別協力者 / 内閣府政策統括官(共生・共助担当)付 交通安全企画
 第一担当 参事官補佐)
 山崎 律子 (特別協力者 / 内閣府政策統括官(共生・共助担当)付 交通安全対策
 担当 参事官)

(3) 海外調査ワーキンググループ

新規海外調査の企画推進を担う「ワーキンググループ」を設置した。令和8年度のトライアル調査の詳細を企画し、それに基づいて募集、選考を実施し、令和8年度の調査推進計画案 を定めた。

①ワーキンググループメンバー (敬称略)

リーダー 北村 友人 (IATSS 会員・国際共創部会部会長 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)
 メンバー 関根 太郎 (IATSS 会員・国際共創部会部会員 / 日本大学理工学部機械工学科 教授)
 中村 彰宏 (IATSS 会員・国際共創部会副部会長 / 中央大学経済学部 教授)
 吉田 長裕 (IATSS 会員・国際共創部会副部会長 / 大阪公立大学大学院工学研究科
 准教授)
 周 純甄 (特別協力者 / 大阪大学大学院工学研究科 助教)
 葉 健人 (特別協力者 / 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授)

(4) GIFTS タスクフォース

令和6年度をもって終了した GIFTS の後継となるイベントの企画検討を担うタスクフォースを設置し、大筋の方向性の議論を開始した。次年度からは「GIFTS ワーキンググループ」へと昇華し、新規(第11回) GIFTS 開催に向けて、具体的検討を進めていく。

①タスクフォースメンバー (敬称略)

リーダー 馬奈木 俊介 (IATSS 会員・国際共創部会部会員 / 九州大学大学院工学研究院都市・
 交通工学講座 教授)
 メンバー 北村 友人 (IATSS 会員・国際共創部会部会長 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)
 中村 彰宏 (IATSS 会員・国際共創部会副部会長 / 中央大学経済学部 教授)

(5) JICA 連携タスクフォース

令和8年度から、フィリピンにおける交通安全事業を JICA 等との連携で共同実施する。また、カンボジア教育省との MOU 締結を進め、JICA連携のもと探求型学習を通じた交通安全教育を展開する。両事業を JICA 連携タスクフォースとして位置付けた。

①タスクフォースメンバー（敬称略）

リーダー 川口 純 （IATSS 会員・国際共創部会部会員 / 慶応義塾大学文学部教育学専攻
准教授）

メンバー 北村 友人（IATSS 会員・国際共創部会部会長 / 東京大学大学院教育学研究科 教授）

中村 彰宏（IATSS 会員・国際共創部会副部会長 / 中央大学経済学部 教授）

2) ATRANS (Asian Transportation Research Society) への業務委託

(1) 業務委託

下記の 5 テーマの業務委託研究を実施した。

Prj ① Escalating Punishment for Habitual Drunk Drivers: A Study on Legal Reforms and Data System Optimization

Prj ② Leveraging large language models (LLMs) for participative system dynamic model building in sustainable transport planning process

Prj ③ Driving the Future: Evaluating Electric Vehicle Adoption, Environmental Impact, and Policy Effectiveness in Thailand

Prj ④ Evaluating Sustainable Mobility and Its Influence on Urban Expansion in Thailand

Prj ⑤ Exploring Heterogeneity of Rail Transit Passengers in Bangkok

(2) 実績

①業務委託_報告会

- ・ IATSS 外部報告会 (ATTRANS 紹介、令和 6 年度の選出された研究テーマの外部報告)

開催日：令和 7 年 4 月 11 日

形態：ハイブリッド開催

場所：経団連ホール（日本_東京）

- ・ 中間報告会 (令和 7 年度の 5 つの研究テーマの中間報告)

開催日：令和 7 年 8 月 28 日

形態：ハイブリッド開催

場所：Chatrium Grand Hotel Bangkok (タイ_バンコク)

- ・ Semi-Final 報告会 (5 つの研究テーマの最終報告)

開催日：令和 8 年 1 月 16 日

形態：ハイブリッド開催

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋（日本_東京）

②カンファレンス_共催

イベント：18th ATRANS Annual Conference (Symposium)

テーマ：“Transport innovation shaping the future mobility and lifestyles”

開催日：令和 7 年 8 月 29 日

形態：ハイブリッド開催

場所：Chatrium Grand Hotel Bangkok (タイ_バンコク)

共催：オープニングセッション_ウェルカムメッセージ (河合専務理事)

IATSS 会員のセッション_講演(3名)

IATSS 展示ブース_設営

③活動支援_研究成果の質の向上を目指し、オンラインミーティングと現地視察を実施

・Prj ①

オンラインミーティング

実施日：令和7年7月2日

内容：研究テーマの詳細共有と現地視察について

現地視察

実施日：令和7年8月27日

内容：Royal Thai Police とのワークショップ

・Prj ②

オンラインミーティング

実施日：令和7年6月11日

内容：研究テーマの詳細共有と現地視察について

・Prj ③

オンラインミーティング

実施日：令和7年6月30日

内容：研究テーマの詳細共有と現地視察について

現地視察

実施日：令和7年8月27日

内容：電気自動車会社、EV トゥクトゥク会社への訪問とヒアリング

・Prj ④

オンラインミーティング

実施日：令和7年6月13日

内容：研究テーマの詳細共有と現地視察について

現地視察

実施日：令和7年8月27日

内容：タイ DLT (Department of Land Transport) および BMA (Bangkok Administration) とのワークショップ

・Prj ⑤

オンラインミーティング

実施日：令和7年6月11日

内容：研究テーマの詳細共有と現地視察について

現地視察

実施日：令和7年8月27日

内容：BTS 駅と駅までの交通手段視察

3) ESRA(E-Survey of Road users' Attitude)3 プロジェクトへの参画

(1) 背景と目的

平成 30 年度より当学会は「ベルギー道路交通安全研究所」“Vias institute” がとりまとめ / 調整を行っている国際プロジェクト“ESRA(E-Survey of Road users' Attitudes)” に日本の研究機関として参加している。すでに ESRA2 展開において、48 か国約 45,000 人の道路利用者を対象とした意識調査を実施し、各国の規範意識及び交通行動の客観的データが集計・分析され、交通安全施策に資する報告書を作成した。

令和 7 年度末より 3 か年計画の ESRA4 が開始となり、令和 7 年度(本年度)は、ESRA3 の総括と、ESRA4 のキックオフが推進された。ESRA4 においても当学会はステアリングメンバーとして企画運営会議(現地、リモート)に参加している。

(2) 実績

① ESRA3 および ESRA4 Steering Group Meeting

第 1 回 リモート参加 (R07.05.15)

- ・最新の ESRA3 レポート
- ・WHO ESRA3 ウェビナーについて
- ・6 月に実施される、ESRA3 ファイナルイベントと ESRA10 周年記念イベントについて

第 2 回 対面参加 (R07.06.23-24)

- ・6/23_ESRA3 ファイナルイベントに参加し、IATSS_TASK 成果を発表
- ・6/24_ESRA10 周年記念イベントに参加し、ESRA2 データの活用事例を紹介した

第 3 回 リモート参加 (R07.10.06)

- ・6 月の ESRA イベントの振り返り
- ・ESRA4 コンソーシアムについて
- ・ESRA4 アンケート調査設計について

第 4 回 リモート参加 (R07.10.23)

- ・ESRA4 アンケート調査設計の進捗について

第 5 回 リモート参加 (R08.01.13)

- ・ESRA4 アンケート調査最終確認
- ・ESRA4 タイムライン共有

第 6 回 リモート参加 (R08.03.10)

- ・6 月に実施予定の対面でのミーティングに向けてのアイデア
- ・ESRA4 アンケート調査の最終承認について

② ESRA4

- ・Partners signing up for ESRA4 (R07.07.12)
- ・アンケート調査、日本語翻訳の提出 (R08.02.22-03.03)

4) 海外研究機関等とのネットワークの強化

(1) 目的と概要

研究調査活動の高度化および研究成果の社会実装の国際展開を推進することを目的として、海外研究機関・国際機関等とのネットワークの維持・強化を図るものである。これまで進めてきたネットワーク構築・維持活動を基盤としつつ、近年は研究テーマの高度化や社会実装志向の高まりを踏まえ、より戦略的かつ双方向的な国際連携への転換が求められている。

令和7年度においては、主要な国際会議・フォーラムへの参加や海外機関との対話を通じて、世界の交通・安全分野における最新動向や重要課題、キーワードの把握・整理を行うとともに、それらを本学会の研究活動へ還元するための知見の蓄積を図った。あわせて、既存ネットワークの維持・深化に加え、新たな連携可能性の探索を行い、国際的な協働基盤の強化を推進した。

(2) 実績

① IRF(International Road Federation) との MOU 締結 (R07.11.17 日本 _ 東京)

・連携の強化：

IRF の Gonzalo Alcaraz(Acting Director General) が来日し、本学会の武内会長との間で MoU(覚書) を締結した。道路・交通システムのグローバルな推進に向けた相互協力関係の強化を確認した。

② TRB(Transport Research Board) ANNUAL MEETING 2026 出席 (R08.01.11-15 アメリカ _ ワシントン)

・トレンド調査：

現地に於いてミーティングに参加し、昨今の研究動向や世界のトレンド調査、交通と安全に関する課題やキーワード等の情報収集を行った。

収集した情報を今後の交通社会に関わる種となるように整理・取りまとめた。

・ネットワークの維持・拡大：

WRI(World Resources Institute) や GRSF (Global Road Safety Facility) との情報交換ミーティングを実施した。随時ネットワークを維持・拡大することで、連携(研究調査等)の可能性を継続的に模索する。

③ TT(Transforming Transportation) A Global Mobility Forum 2026 出席 (R08.03.09-13 アメリカ _ ワシントン)

・トレンド調査：

現地に於いてフォーラムに参加し、昨今の研究動向や世界のトレンド調査、交通と安全に関する課題やキーワード等の情報収集を行った。

収集した情報を今後の交通社会に関わる種となるように整理・取りまとめた。

・ネットワークの維持・拡大：

今後の国際イベントでの共創の可能性について、WRI との情報交換ミーティングを実施した。

II 広報出版事業

定期刊行物としては、IATSS Review (国際交通安全学会誌) Vol.50, No.1 ～ 3 および IATSS Research(英文論文集)Vol.49, Issue 1 ～ 4 を発行した。

1. 学会誌編集部会

1) IATSS Review の発行

- ・ Vol.50, No.1 「特集 / 気候変動適応と都市・交通」(R07.06.30)
- ・ Vol.50, No.2 「特集 / インクルーシブな交通社会」(R07.10.31)
- ・ Vol.50, No.3 「特集 / 人間の可能性が拓くモビリティ社会」(R08.02.28)

2) 制作業務委託先の変更

編集作業の効率化と質向上のため、来年度発行号 (Vol.51, No.1) より委託業者を変更 (本年度 2 月より実務開始)。

3) 最終確認体制の変更

部会体制の変更 (副部会長設置) に伴い、原稿や通知文書等の最終確認を部会長と副部会長が分担して推進。

4) 特集企画の検討・決定方法の変更

担当者を事前に輪番として定め、企画内容は担当者の興味と社会のトレンド分析から部会内で議論を進めていく方法に変更し、Vol.51, No.1 の特集企画より実施。

5) 執筆規定・投稿規定・執筆要領の改訂

分量の明確化、用語統一の拠り所の明記、参考文献の記載方法のシンプル化。

6) 部会開催実績

(1) 第 1 回 (第 364回)(R07.05.07)

- ・ 今期部会の進め方について
- ・ Vol.50, No.1 進捗確認
- ・ Vol.50, No.2 進捗確認
- ・ Vol.50, No.3 特集企画検討
- ・ 投稿 23-03、24-03 審査の進捗確認
- ・ J-STAGE アクセス集計報告

(2) 第 2 回 (第 365回)(R07.07.01)

- ・ Vol.50, No.1 発行報告
- ・ Vol.50, No.2 原稿確認報告および審議
- ・ Vol.50, No.3 進捗確認
- ・ Vol.51, No.1 特集企画検討
- ・ 投稿 23-03 審査の進捗確認

- ・規定等改訂について
- ・J-STAGE アクセス集計報告

(3) 第 3 回 (第366回)(R07.10.07)

- ・ Vol.50, No.2 進捗確認
- ・ Vol.50, No.3 進捗確認
- ・ Vol.51, No.1 特集企画検討
- ・ Vol.51, No.2 特集企画検討
- ・ 投稿 25-01 審査の進捗確認
- ・ 投稿 25-02、25-03 査読者選定
- ・ J-STAGE アクセス集計報告

(4) 第 4 回 (第367回)(R07.11.19)

- ・ Vol.50, No.2 発行報告
- ・ Vol.50, No.3 原稿確認報告および審議
- ・ Vol.51, No.1 進捗確認
- ・ Vol.51, No.2 特集企画検討
- ・ 投稿 25-01、25-03 査読報告および審議
- ・ 投稿 25-02 審査の進捗確認
- ・ J-STAGE アクセス集計報告

(5) 第 5 回 (第368回)(R08.01.21)

- ・ Vol.50, No.3 進捗確認
- ・ Vol.51, No.1 進捗確認
- ・ Vol.51, No.2 特集企画検討
- ・ Vol.51, No.3 特集企画検討
- ・ 投稿 25-02 査読報告および審議
- ・ 投稿 25-01、25-03 審査の進捗確認
- ・ J-STAGE アクセス集計報告

(6) 第 6 回 (第369回)(R08.03.10)

- ・ Vol.50, No.3 発行報告
- ・ Vol.51, No.1 原稿確認報告および審議
- ・ Vol.51, No.2 進捗確認
- ・ Vol.51, No.3 特集企画検討
- ・ 投稿 25-01、25-02 審査の進捗確認
- ・ 投稿 25-03 再査読報告および審議
- ・ J-STAGE アクセス集計報告

7) 学会誌編集委員会メンバー (敬称略)

部会長	小竹 元基	(IATSS 会員 / 東京科学大学工学院機械系 教授)
副部会長	鈴木 弘司	(IATSS 会員 / 名古屋工業大学社会工学科 教授)
	大木 聖子	(IATSS 会員 / 慶應義塾大学環境情報学部 准教授)
	木林 和彦	(IATSS 会員 / 東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・基幹分野長)
	栗谷川 幸代	(IATSS 会員 / 日本大学生産工学部 教授)
	塩見 康博	(IATSS 会員 / 立命館大学理工学部 教授)
	中尾田 隆	(IATSS 会員 / 池袋南法律事務所 弁護士)
	浜岡 秀勝	(IATSS 会員 / 秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻土木環境工学コース 教授)
	二村 真理子	(IATSS 会員 / 東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻 教授)
	村上 暁信	(IATSS 会員 / 筑波大学システム情報系 教授)
	安井 裕司	(IATSS 会員 / (株) 本田技術研究所 エグゼクティブチーフエンジニア)

2. 英文論文集編集委員会

1) インパクトファクター継続取得

令和 7 年 6 月 18 日、2024 年 Journal Impact Factor (JIF) が Clarivate Analytics 社より発表され、IATSS Research は JIF “3.3” を取得した。

2) 定期発行

下記の通り、4 号を定期発行した。

- Vol.49, Issue 1 (R07.04)
- Vol.49, Issue 2 (R07.07)
- Vol.49, Issue 3 (R07.10)
- Vol.49, Issue 4 (R07.12)

下記特集を特集サイトにて発行した。

“Sensing and Communication Technology and Application for Transportation” (R08.2)

3) 次年度の発行計画および特集企画

- Vol.50, Issue 1 (R08.04 予定)
- Vol.50, Issue 2 (R08.07 予定)
- Vol.50, Issue 3 (R08.10 予定)
- Vol.50, Issue 4 (R08.12 予定)

“The ESRA initiative: growing insights on global monitoring of road safety performance and attitudes” 特集

“ICSC Exploring Cycling Safety Culture” 特集

“Shifting Vehicle Safety Standard: Integrating Vehicle, Environment and Human Aspects” 特集

4) ジャーナルパフォーマンスの確認

定期的に編集にて投稿数、登載率、被引用率等のジャーナルパフォーマンスの推移を確認した。

5) 審査支援委員会の開催

編集部会・審査支援委員会を同時開催し、初期審査をサポートする特別協力者にジャーナル運営状況の共有を行った。

6) 査読スピードの改善

査読期間の長い論文は、サポートレビューアーに短期間での査読を依頼し、査読期間の短縮を図った。

7) エディター増員

投稿数増加による Editor 補充のため、新たに 7 名の新規 Editor が選定され、就任した。

8) 投稿数増加に対する対策の検討

APC (Article Publishing Charge) の徴収の是非について検討した。

9) 論文賞選考における褒賞助成部会との連携体制の検討

令和 9 年度の論文賞選考から本格運用を目標に、褒賞助成部会との連携し、エディター推薦機能のシステム化、多角的評価軸の導入を検討した。

10) 国際会議でのジャーナルプロモーション強化

エルゼビア出版社による TRB などの国際カンファレンスでのジャーナルプロモーションを強化し、IATSS RESEARCH を通した海外発信・連携強化について検討を行った。

11) 部会開催実績

(1) 第 1 回 (201回) (R07.05.13)

- ・今年度の部会および編集体制
- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・49 - 1 発刊報告
- ・ESRA 特集進捗報告
- ・ICSC 特集進捗報告
- ・Sensing 特集進捗報告
- ・エディターの増員検討
- ・Scope の検討 (IATSS Research の差別化)
- ・投稿論文審査進捗報告

(2) 第 2 回 (202回) (R07.07.31)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・49 - 2 発刊報告

- ・ ESRA 特集進捗報告
- ・ ICSC 特集進捗報告
- ・ Sensing 特集進捗報告
- ・ SHIFT 特集進捗報告
- ・ 新エディター兼サポートレビューア就任報告
- ・ 査読者による AI ツール利用について
- ・ 国際共創部会との連携について
- ・ 褒賞助成部会への協力について
- ・ 投稿論文審査進捗報告

(3) 第 3 回 (203回) (R07.10.10)

- ・ ジャーナルパフォーマンス報告
- ・ 49 - 3 In Progress 報告
- ・ ESRA 特集進捗報告
- ・ ICSC 特集進捗報告
- ・ Sensing 特集進捗報告
- ・ SHIFT 特集進捗報告
- ・ 査読者による AI ツール利用について
- ・ 国際共創部会との連携について
- ・ 褒賞助成部会への協力について
- ・ 戦略構築タスクフォース会議について
- ・ 投稿論文審査進捗報告

(4) 第 4 回 (204回) (R07.12.17)

- ・ SHIFT 特集進捗報告
- ・ 論文賞選考プロセスにおける協力体制の運用について
- ・ 一般投稿および特集論文の増加に伴う対応策の検討

(5) 第 5 回 (205回) (R08.03.17)

- ・ ジャーナルパフォーマンス報告
- ・ 49 - 4 発刊報告
- ・ Sensing 特集発刊報告
- ・ ESRA 特集進捗報告
- ・ ICSC 特集進捗報告
- ・ SHIFT 特集進捗報告
- ・ WCTR 企画進捗報告
- ・ エディター増員の検討
- ・ 褒賞助成部会への協力について(選考プロセスの運用)
- ・ 一般投稿および特集論文の増加に伴う対応策の検討
- ・ 投稿論文審査進捗報告

12) 英文論文集編集部会メンバー (敬称略)

部会長	紀伊 雅敦 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科 教授)
副部会長	土井 健司 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
副部会長	上條 俊介 (IATSS 会員 / 東京大学情報学環 准教授)
	大森 宣暁 (IATSS 会員 / 宇都宮大学地域デザイン科学部 教授)
	木林 和彦 (IATSS 会員 / 東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・基幹分野長)
	久保 正男 (IATSS 会員 / 防衛大学校 准教授)
	小嶋 文 (IATSS 会員 / 埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)
	小早川 悟 (IATSS 会員 / 日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
	後藤 孝夫 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)
	中井 宏 (IATSS 会員 / 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)
	福山 敬 (IATSS 会員 / 鳥取大学工学部社会システム土木系学科 教授)

13) 英文論文集編集部会メンバーを除く Editorial Board Members (敬称略)

● Editorial Advisory Board Members (7名)

N. Christie	(University College London, UK)
M. Hagenzieker	(Delft University of Technology, the Netherlands)
B. Heydecker	(University College London, UK)
R. M. Pendyala	(Arizona State University, USA)
M. Tira	(University of Brescia, Italy)
G. Tiwari	(Indian Institute of Technology Delhi, India)
S. V. Wong	(Malaysian Institute of Road Safety Research & University Putra Malaysia, Malaysia)

● Associate Editors (33名)

B. Barabino	(University of Brescia, Italy)
W. Alhajayseen	(Qatar University, Qatar)
S. Chalermpong	(Chulalongkorn University, Thailand)
Y.-S. Chung	(National Chiao Tung University, Taiwan)
A. M. Fillone	(De La Salle University, the Philippines)
V. M. Garikapati	(National Renewable Energy Laboratory, USA)
Y. Gu	(Hiroshima University, Japan)
S. Han	(Seoul National University, Republic of Korea)
YT. Hsu	(National Taiwan University, Taiwan)
S. Jaensirisak	(Ubon Ratchathani University, Thailand)
D. Jain	(Indian Institute of Technology, India)
E. Javanmardi	(The University of Tokyo, Japan)
M. Li	(Tsinghua University, China)
B. Maitra	(Indian Institute of Technology Kharagpur, India)
L. Malik	(Indian Institute of Technology Dhanbad, India)
T. Manabe	(Saitama University, Japan)

I. M.-Babiano	(University of Melbourne, Australia)
M. Matsuo	(Kobe University, Japan)
T. Osada	(Utsunomiya University, Japan)
S. O'Toole	(University College London, UK)
I. Öztürk	(University of Leeds, UK)
E. Papadimitriou	(Delft University of Technology, the Netherlands)
A. WH Poi	(Malaysian Institute of Road Safety Research, Malaysia)
S. S. Pulugurtha	(The University of North Carolina at Charlotte, USA)
A. Sheykhfard	(University of New Mexico, USA)
N.N. Sze	(Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong, China)
K. Tang	(Tongji University, China)
R. Tay	(RMIT University, Australia)
O. O-Trespalacios	(Delft University of Technology, the Netherlands)
M. Vanderschuren	(University of Cape Town, South Africa)
V. Vichiensan	(Kasetsart University, Thailand)
K. Yoh	(The University of Osaka, Japan)
K.-F. Wu	(National Chiao Tung University, Taiwan)

● **Assistant Editor (1名)**

C. Chou	(The University of Osaka, Japan)
---------	----------------------------------

Ⅲ 褒賞・助成事業

今年度は、第 46 回国際交通安全学会賞の贈呈式を行うとともに、第 47 回国際交通安全学会賞として、業績部門 2 件、著作部門 1 件、論文部門 2 件の授賞を決定した。

1. 第 46 回(令和 6 年度)国際交通安全学会賞贈呈式

令和 7 年 4 月 11 日(金) ハイブリッド(経団連会館+リモート)で開催した。

2. 第 47 回(令和 7 年度)国際交通安全学会賞

《業績部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、研究、施策の推進、普及、啓発、あるいは機器の開発、設備・施設の建設などに多大な業績をあげたものを対象に、過去 3 年以内に成果が顕著となった業績の中から選考される。

例年と同様、公募による推薦と部会メンバーの調査によって、候補業績の情報を収集し、今年度の候補業績 27 件について視察・ヒアリング調査及び審査を重ねた結果、2 件が選出された。

出典：第 47 回国際交通安全学会賞パンフレット

業績題目：のとの里山の道の守人 ～道路緊急復旧・復興現場の声に学ぶ～

受賞者：石川県建設業協会、石川県奥能登土木総合事務所、国土交通省北陸地方整備局 能登復興事務所

受賞理由：

令和 6 年能登半島地震、および同年 9 月の豪雨という連続する未曾有の災害に対し、地域の生命線である交通インフラの確保に奔走した関係者の献身的な活動を、現場の生きた声として広く伝えるものです。

発災直後、珠洲建設業協会、鳳輪建設業協会等の地元業者は、自らも被災しながら BCP の想定を超える通信遮断や資材不足に直面しました。しかし、限られた燃料や資材を融通し合い、孤立集落の解消に向けた道路啓開に不眠不休で尽力されました。石川県建設業協会は、発災翌日の安全対策会議を経て、必要資材・機材の運搬や重機配置の把握などの支援体制を確立し、迅速な後方支援を展開しました。

石川県奥能登土木総合事務所は、道路の崩落や陥没など、非常に困難な被災状況に対して、二次災害防止と復旧の両立に取り組み、段階的に通行止めを解除してきました。さらに、港や河川施設においても着実に復旧作業を進めています。

国土交通省北陸地方整備局は、地震、豪雨災害に際しても「つなげる何度でも」を掲げ、隆起した海岸に迂回路を設置、山自体が動いて被災した大谷トンネルの復旧など、災害前よりも魅力ある地域とするための方策検討も含め、復旧復興へ続く道を整備しています。

地元建設業界、県、国が各々の立場で役割を果たし、その協働連携に関わる知見・経験の共有は、将来の大規模災害時における交通インフラ確保の指針となるものであり、高く評価いたしました。

業績題目：人とまちが一つになるにぎわいの空間

～なんば駅前広場と安全安心なまちづくりの物語～

受賞者：なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会

受賞理由：

なんば駅前広場は、道路空間再編事業の一環として、車両交通を適切に再編しつつ、人とまちを安全につなぐ歩行空間として整備されたものです。従来、駅前周辺は道路空間により商店街や拠点エリアとの接続が分断され、違法駐輪も相まって歩行者のための安全安心な空間が十分に確保されていませんでした。こうした課題に対し、地元町会・商店街の発意により「なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会」が発足し、関係者間の合意形成と調整を重ねながら事業が推進されてきました。

駅前広場の整備では三つの方針を重視しています。第一に、回遊性向上によるにぎわい創出です。椅子やテーブルの設置により滞留環境を整備したところ、若年層の女性の滞留時間が増加するなど、広場設置の成果を示すエビデンスが人流データ分析から得られています。第二に、安全安心の確保です。防犯カメラの設置や警備員の配置により、歩行者が安心して滞在できる空間づくりに努めています。第三に、地元主体の企画運営です。地元住民の間で、広場への愛着と活動の主体性が醸成されている点が特徴です。

現在はインバウンド増加に対応しつつ、デジタルサイネージによる広告収入やイベント開催など、持続的な運営に向けた収益確保にも取り組んでいます。車両流動を維持しつつ大きな渋滞を生じさせることなく駅前にウォークアブルな空間を実現している点は、高く評価できる取り組みと言えます。地元発意を起点とした本事業は、安全安心を基盤とする持続可能なまちづくりの先進的な事例になり得るものと考え、ここに業績部門の学会賞候補として選出いたします。

《著作部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、過去2年間に初版として刊行された優れた著作・出版物の中から選考される。

今年度は40点について各部会員が分担で査読をし、絞り込みを行い審査した結果、1件が選出された。

出典：第47回国際交通安全学会賞パンフレット

著書名：技術システムの継承と選択：国有鉄道における改軌論争と新幹線開発

受賞者：菊地 宏樹

受賞理由：

交通、通信、電力など様々な技術システムは、どのように過去から未来へと進化していくのか。技術システムの限界は何によって画され、何によって乗り越えられていくのか。本書は、このような問題意識のもとに、技術システムの進化のメカニズムを解明することを課題としています。

技術そのものの内在的な論理、限界だけでなく、技術システムに関与する社会・組織という社会的主体のあり方が、技術システムの進化にどのような影響を及ぼすのかを、「技術フレーム」と称する分析視角で解き明かすという独創的な論旨が展開されています。その具体的検証の場の中心にあるのは、日本における高速鉄道の技術システムの進化、すなわち軌道広軌化による新幹線の登場とスピードアップです。

開業以来20年以上、速度向上がなされなかった新幹線が、なぜ、国鉄最後のダイヤ改正(1986

年 11 月 1 日)で速度向上を達成したのか。この問いが、新幹線の速度の技術的限界、騒音を中心とする環境問題、そして、労働組合と経営側との事前協議・現場協議等による制約など、それぞれに関わるアクターの技術フレームの推移という道具立てを中心に、当事者へのインタビューも駆使して、解き明かされています。

このように新幹線という現在も基幹的な交通分野の事例研究を展開した本著作は、技術史、鉄道史、システム開発など、多様な分野に大きな刺激となる学際的な研究として、また、現在および将来の交通問題の解決にとっても示唆を与えるものとして、本書を学会賞著作部門に相応しいと評価いたしました。

《論文部門》

当部門は、国際交通安全学会誌 (IATSS Review) 及び英文論文集 (IATSS RESEARCH) に掲載された論文の中から選考される。

本年度は、「IATSS Review」Vol.49, No2・Vol.49, No3・Vol.50, No1 に掲載された論文・論説 9 編および「IATSS RESEARCH」Vol.48, Issue3・Vol.48, Issue4・Vol.49, Issue1・Vol.49, Issue2 に掲載された論文 49 編について各部会員が分担で査読をし、絞り込みを行い審査した結果、2 編が選出された。

出典：第 47 回国際交通安全学会賞パンフレット

論文名 : [論説] ライドシェアをめぐる法制度の現状と今後の課題

受賞者 : 谷口 博文

受賞理由 :

本稿は、IATSS Review 令和 6 年 10 月号「タクシー・ライドシェア」の特集号に掲載された論文です。ライドシェア導入に関する検討が政策現場で本格化する中、本論文は、法的側面からライドシェア制度の問題を議論したものです。

本稿はまず、日本における「ライドシェア」を Uber や Lyft に代表される諸外国の「ライドシェアビジネス」とは異なるものとし、法的には道路運送法の第 78 条第 2 号の例外規定により、旅客自動車運送事業には含まれず、二種免許も求められないものとしています。また、最近の動きとして、交通空白の概念に、従来の地域的な視点に加えて時間帯の視点の導入が図られたこと、そして自家用車活用事業が提示されたことで、都市部においてもライドシェアの道が開かれたことが示されています。ただし、この措置はタクシー事業の規制緩和であって、ライドシェアビジネスを旅客運送事業の一つと認めているわけではないとも指摘しています。

また、今後、日本でライドシェアビジネスが展開するにあたって、先行する諸外国でプラットフォーム事業者に対する安全面等の対応義務規定が整えられた経緯から、ビジネスモデルの形成と規制のあり方に関する議論や、地方部における財政支援の議論が必要であると指摘しています。

本稿は、日本のライドシェア導入の検討が政策現場で進む中、早い段階で、法における同制度の位置づけ、関連する通達の解釈、さらには現在のライドシェアからライドシェアビジネスへの発展の可能性まで包括的に議論されており、当該分野を理解するために大変有用な知見を提供しています。

よって、本論文をライドシェアに対する法律の観点から取りまとめた優れた論文であると高く評価し、ここに、国際交通安全学会賞論文部門に相応しい論文として選定しました。

論文名 : Analysis of land-use and POIs contributing to traffic accidents around intersections

受賞者 : Satoshi Nakao Koshi Sawada Andreas Keler Jan-Dirk Schmöcker

受賞理由 :

本論文は、交通事故の中でも発生頻度と社会的影響の大きい交差点事故に着目し、その要因を土地利用と周辺施設環境の観点から実証的に分析した先進的研究です。交差点事故は都市の交通安全の重要課題であるにもかかわらず、その発生メカニズムには未解明な点が多く残されています。従来の交通工学では交通量や信号制御、道路構造といった運用・施設条件に重点が置かれてきましたが、本研究は都市空間の利用実態と交通安全の関係に踏み込み、研究領域の拡張に寄与しています。

とくに、従来見過ごされがちだった中小規模交差点に注目し、土地利用と公園や、飲食店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどの周辺施設 (POI : Points Of Interest) を体系的に分析に取り入れた点が評価できます。重大事故が少ないため研究対象になりにくい中小規模交差点ですが、日常生活圏で多くの事故が発生している実態を踏まえた問題設定は社会的意義が高いといえます。さらに京都市内の交差点を網羅的に対象とし、OpenStreetMap データから周辺 POI や土地利用情報を整理・定量化することで、周辺環境が事故リスクに与える影響を客観的かつ再現可能な形で示しています。

データ収集から変数設計、統計分析まで一貫した方法論により再現性と発展性を確保しており、他都市への適用や時系列分析などの展開も期待されます。また、公園近接交差点では事故率が低く、飲食店や小売店が集中する交差点では事故率が高まる傾向を示すなど、政策立案に直結する知見も提示しています。

以上より、本研究は学術的独創性、方法論的厳密性、社会的インパクトの面で優れた成果を示していると評価でき、本学会賞に相応しい論文と判断しました。

3. 令和 7 年度褒賞助成部会

1) 部会開催実績

第 1 回 (R07.06.13)

- ・年間活動スケジュールについて
- ・第 47 回学会賞について
- ・「業績部門」「著作部門」の候補推薦についてのお願い
- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」候補の検討
- ・「論文部門」候補の検討
- ・業績候補視察について
- ・ユース助成制度について

第 2 回 (R07.09.17)

- ・「業績部門」候補の検討／視察先について
- ・「著作部門」査読結果共有／追加査読について
- ・「論文部門」査読結果共有／追加査読について
- ・ユース助成の今後の進め方について

第3回 (R07.12.11)

- ・「業績部門」候補視察報告／候補確定
- ・「著作部門」査読結果共有
- ・「論文部門」査読結果共有
- ・ユース助成制度今後の進め方について
- ・英文論文集委員会との協力について
- ・戦略タスクフォースからの宿題について

第4回 (R08.01.07)

- ・「業績部門」推薦文担当決定
- ・「著作部門」査読結果共有／候補確定／推薦文担当決定
- ・「論文部門」査読結果共有／候補確定／推薦文担当決定
- ・ユース助成制度について
- ・今後のスケジュールについて

2) ヒアリング・視察

- ・石川県建設業協会(珠洲建設業協会、鳳輪建設業協会)・国交省能登復興事務所 石川県奥能登土木総合事務所 視察・ヒアリング (R07.11.05-06)
- ・なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会 視察・ヒアリング (R07.11.13)

3) 会員信任投票

候補信任 (R08.02.16 締切)

4) 理事会

候補承認 (R08.02.26)

5) 褒賞助成部会メンバー(敬称略)

部会長	小川 和久	(IATSS 会員 / 東北工業大学総合教育センター 教授)
副部会長	関根 太郎	(IATSS 会員 / 日本大学理工学部機械工学科 教授)
	押田 佳子	(IATSS 会員 / 日本大学理工学部まちづくり工学科 准教授)
	加藤 一誠	(IATSS 会員 / 慶應義塾大学商学部 教授)
	小早川 悟	(IATSS 会員 / 日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
	斎藤 誠	(IATSS 会員 / 東京大学大学院法学政治学研究科 教授)
	浜岡 秀勝	(IATSS 会員 / 秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻 土木環境工学コース 教授)
	福山 敬	(IATSS 会員 / 鳥取大学工学部社会システム土木系学科 教授)
	二村 真理子	(IATSS 会員 / 東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻 教授)
	松橋 啓介	(IATSS 会員 / (国研) 国立環境研究所社会システム領域 室長)
	三浦 詩乃	(IATSS 会員 / 中央大学都市環境学科 准教授)

4. ユース活動助成金制度

創立 50 周年を機に「私たちがつくる交通安全～ユース活動助成金制度～」を開始した。

ユース活動助成金制度は、学校現場での交通安全教育、若者の主体的な交通安全の活動を賞賛し、その活動の継続や発展を支援すること、またこのような活動を広く周知し、その普及を促進することを目的とし、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校等で行われる交通安全教育活動を対象としている。

昨年度は、9 校の応募があり、小学校 2 校、高等学校 2 校、特別支援学校 1 校に助成した。今年度は、7 件の応募があり、小学校 4 校、高等学校 2 校の計 6 件に対して助成することを決定した。

1) 令和 7 年度助成校実績

(1) 高知県土佐市立蓮池小学校

児童の交通意識向上のため事故防止の映像を作成し、繰り返し児童への啓発活動を行っている

(2) 埼玉県川口市立並木小学校

児童中心に地域安全マップを作成し、児童、家庭、地域と連携した交通安全活動を実施している

(3) 熊本県立矢部高等学校二輪競技部

県交通安全協会主催の「原付バイク安全運転スキルアップ講習会」へ参加、交通安全への意識向上と原付バイクの技術向上を図っている

(4) 福岡県立北九州視覚特別支援学校

視覚障がい者が安心して生活や通学できる環境づくりを目的に、視覚障がいについての知識提供のため、チラシを作成し生徒自ら配布などの活動を行っている

(5) 静岡県加藤学園高等学校

登下校時危険個所の交通安全向上を目的に、各クラスの交通委員による安全指導を実施、特に自転車のマナーについて指導を強化している

2) 令和 8 年度助成対象校と内容

(1) 北海道恵庭市立若草小学校

交差点横断時のストップマークを貼付し、交差点での一時停止の習慣づけなど交通安全の意識向上を計画

(2) 大阪府立みどり清朋高等学校

地域貢献部に地元警察から防犯意識向上、自転車交通安全の啓発活動への協力依頼があり、動画などを作成し、YouTube で配信するなど啓発活動を実施している。今後より地域への発信を強化

(3) 福島県郡山市立柴宮小学校

児童主体で登下校の危険個所などを確認、全校児童で情報共有し、地元自治体と連携し学年に合わせた交通安全教室の開催を計画

(4) 福岡県糸島市立南風小学校

通学路の危険個所に交通安全電柱幕設置個所を、児童自ら検討し、PTA、地元住民と意見交換しながら決定するという、児童が考え発信する場の設定を計画

(5) 奈良県立五條高等学校

自家用車の送迎で通学する生徒が多いため、家庭クラブ、交通安全委員会で無事故を祈るマスコットを制作し、配布することで安全意識の向上をはかるなどの企画を推進

(6) 石川県珠洲市立正院小学校

交通安全教室、スポーツサイクル教室を開催し、交通ルールを守っての歩き方、自転車の安全な乗り方などを学ぶ機会を設定するとともに、通学路の危険個所の地図を作成し交通安全意識の向上を図る

3) 令和7年度褒賞助成部会 ユース助成タスクフォース会議開催実績

第1回 (R07.06.12)

- ・年間スケジュールの検討
- ・助成金活用内容確認のための視察について検討
- ・助成金活用報告会開催について検討
- ・募集告知方法の反省と今後の検討

第2回 (R07.08.20)

- ・助成校の活動計画についての共有
- ・マイスター認定証について
- ・次回募集告知のチラシデザインと送付先について
- ・10月募集開始時の資料内容について

第3回 (R07.12.02)

- ・助成校活動計画への視察内容共有
- ・助成応募状況共有
- ・マイスター認定証の内容確認、贈呈方法について

第4回 (R08.02.12)

- ・助成対象校の選定
- ・推薦文執筆者を決定
- ・マイスター認定証送付状確認
- ・来期の方針・課題について

IV 国際交流事業 (IATSS フォーラム)

国際交流も踏まえた研修事業として、昭和 60 年 9 月から運営を開始し、アジア諸国の若い有望な人材を日本に招請し、各参加国での持続可能な社会の実現に寄与する人材の育成を進めている。

本年度(令和 7 年度)においても、この充実した研修期間を維持・定着させ、対面での深い対話を通じた相互理解の深化を図った。

また IATSS 本体の豊富な学術的・国際的リソースの活用をさらに推し進め、交通・モビリティ系のテーマも引き続き継続、実践的な内容へとブラッシュアップして実施しアジア 10 カ国計 39 名の研修生が令和 7 年度の 2 回の研修に参加した。

事業各項目の内容は以下のとおりである。

1. IATSS フォーラム研修実施

令和 6 年度にコロナ禍前と同様の 8 週間の日程へ復帰したことを受け、令和 7 年度においても、その充実したカリキュラムを基盤とした春・秋 2 回の研修を安定的に実施した。

春研修：令和 7 年 5 月 19 日～7 月 14 日

秋研修：令和 7 年 9 月 15 日～11 月 11 日

2. フォーラム 40 周年記念事業の開催

令和 7 年 11 月 9 日、鈴鹿サーキットにて創立 40 周年記念式典を開催し、国内外から 190 名が来場した。式典では「IATSS フォーラムビジョン 2025」を宣言し、安全で持続可能な交通社会を支える人材育成の基軸を発表した。ほか、高村ゆかり教授による基調講演及びパネルディスカッションを実施した。

関連事業として、国際委員長会議、新研修拠点オープニング式典、国際アルムナイ会議を開催したほか、記念冊子を発行し、40 年の歩みと今後の展望を内外に発信した。

3. IATSS フォーラム部会 開催実績

令和 7 年度は、4 回の部会を開催した。

1) 第 1 回 (169回) (R07.05.22)

- ・令和 7 年度同窓会プロジェクトの承認
- ・令和 7 年度国際委員長会議の実施
- ・40 周年記念事業でのビジョン発信について内容検討

2) 第 2 回 (170回) (R07.07.12)

- ・事務局からの情報共有
 - (1) 68 回フィリピン研修生入れ替え
 - (2) 令和 8 年度研修生 最終審査
 - (3) 第 3 回実行部会の開催
- ・40 周年記念事業 IATSS Forum Vision 案

- ・ 40 周年記念事業 記念誌案

3) 第 3 回 (171回) (R07.08.19)

- ・ 令和 6 年度 67 回研修振り返り
- ・ 40 周年記念事業 _ 式典
- ・ 40 周年記念事業 _ 記念誌
- ・ 40 周年記念事業 _ 国際委員長会議

4) 第 4 回 (172回) (R08.01.29)

- ・ 令和 6 年度研修アンケート結果と来期研修に向けた対応案についての議論
- ・ 令和 7 年度研修日程の共有

4. IATSS フォーラム部会メンバー (敬称略)

- 部会長 中村 彰宏 (IATSS 会員 / 中央大学経済学部 教授)
- 副部会長 北村 友人 (IATSS 会員 / 東京大学大学院教育学研究科 教授)
- 井料 美帆 (IATSS 会員 / 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
- 大森 宣暁 (IATSS 会員 / 宇都宮大学地域デザイン科学部 教授)
- 川口 純 (IATSS 会員 / 慶応義塾大学文学部教育学専攻 准教授)
- 中川 由賀 (IATSS 会員 / 中京大学法学部 教授)
- 平岡 敏洋 (IATSS 会員 / (一財) 日本自動車研究所 主席研究員)
- 吉田 長裕 (IATSS 会員 / 大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

IATSS フォーラム部会特別委員

- 芦田 明美 (名古屋大学大学院国際開発研究科 准教授)
- 葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授)

5. 現地委員会

例年、現地委員会主導で IATSS フォーラム研修生選抜のための書類審査 / 面接審査を実施している。令和 7 年度は、7 月から 9 月まで募集期間とし、現地委員会による書類選考を経て、令和 7 年 11 月から 12 月に IATSS フォーラム実行部会も現地での面接に参加し、令和 8 年度研修参加者 10 カ国 40 名の選抜を完了した。

1) IATSS フォーラム インド委員会

- 委員長 Geetam Tiwari (インド工科大学デリー校教授)
- 事務局 LEAD India

2) IATSS フォーラム インドネシア委員会

- 委員長 Abdi Hamdani (Advisor, ABC Vision Capital)
- 事務局 アストラホンダモーター財団

3) IATSS フォーラム カンボジア委員会

- 委員長 Oum Ravy (王立プノンペン大学 副学長)
- 事務局 Cambodia-Japan Cooperation Center (CJCC)

4) IATSS フォーラム シンガポール委員会

委員長 George Abraham (GA グループ Ltd. 会長兼代表取締役)

事務局 The National University of Singapore Society (NUSS)

5) IATSS フォーラム タイ委員会

委員長 Phirun Saiyasitpanich (タイ環境省気候変動環境局 長官)

事務局 タイ環境省気候変動環境局 (DCCE)

6) IATSS フォーラム フィリピン委員会

委員長 Maridon Onda Sahagun (フィリピン科学技術省 事務次官)

事務局 フィリピン科学技術省 (DOST)

7) IATSS フォーラム ベトナム委員会

委員長 Nguyen Canh Binh (Alphabooks 会長 / ABG リーダーシップ研究所 所長)

事務局 ベトナムアジア太平洋経済センター (VAPEC)

8) IATSS フォーラム マレーシア委員会

委員長 Dato' Zuraidah Atan (ズライダーアタン弁護士事務所代表)

事務局 マラヤ大学 産学連携センター (UMCIR)

9) IATSS フォーラム ミャンマー委員会

委員長 Zaw Min Win (ミャンマー産業協会 シニアアドバイザー)

事務局 ミャンマー産業協会 (MIA)

10) IATSS フォーラム ラオス委員会

委員長 Vanhpheng Khounbolay (ラオス青年同盟 職業訓練局副局長)

事務局 ラオス青年同盟

